

② 第2回アンケートの結果

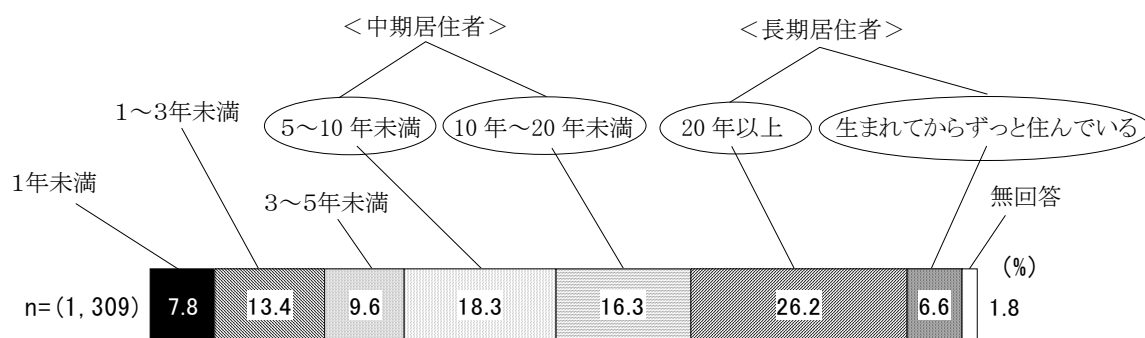
1 定住状況について

1-1 居住年数

◎ 20年以上の＜長期居住者＞が32.8%

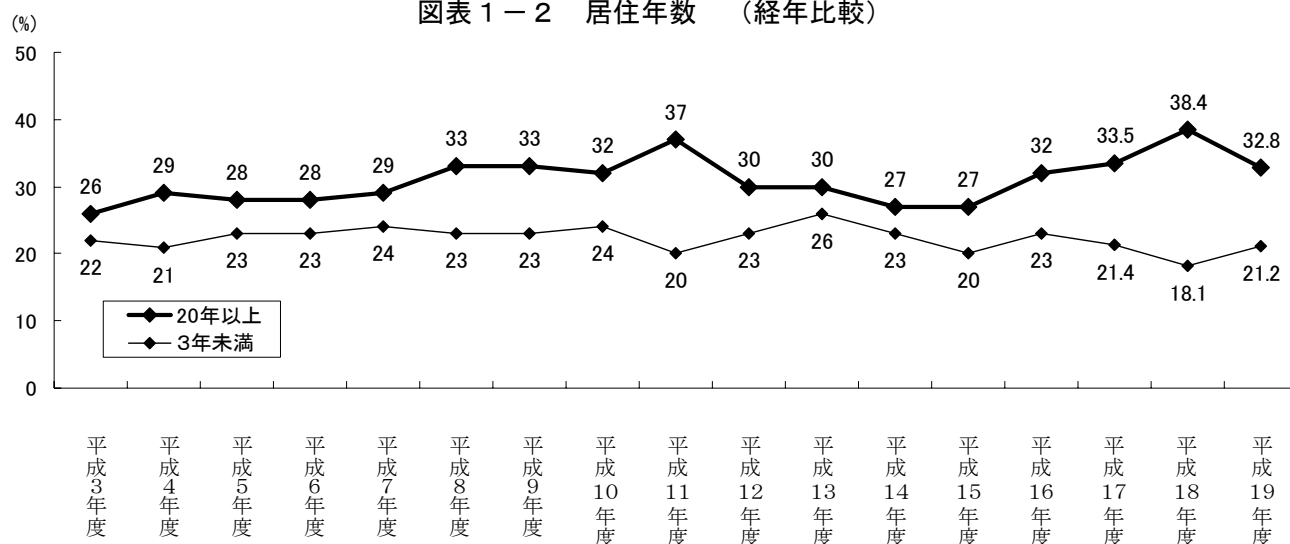
問1 今のところにお住まいになって、何年になりますか。(○は1つ)

図表1-1 居住年数



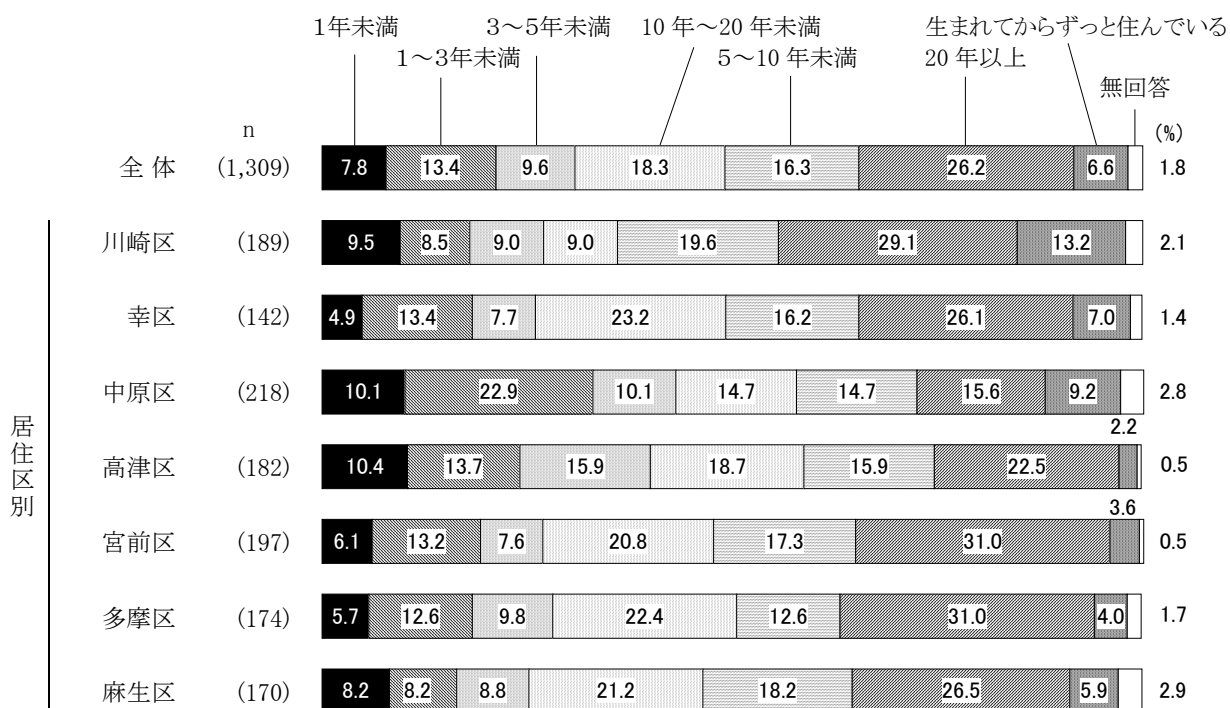
居住年数は、「20年以上」が26.2%で最も多く、これに「生まれてからずっと住んでいる」(6.6%)をあわせた＜長期居住者＞は32.8%、「5～10年未満」(18.3%)と「10年～20年未満」(16.3%)をあわせた＜中期居住者＞は34.6%となっている。(図表1-1)

図表1-2 居住年数 (経年比較)



過去の推移では、平成18年度と比べると＜長期居住者＞の割合は38.4%から32.8%へ5.6ポイント減少している。「3年未満」は18.1%から21.2%へ3.1ポイント増加し、「20年以上」と「3年未満」の割合の差が少なくなっている。(図表1-2)

図表 1－3 居住年数 (居住区別)



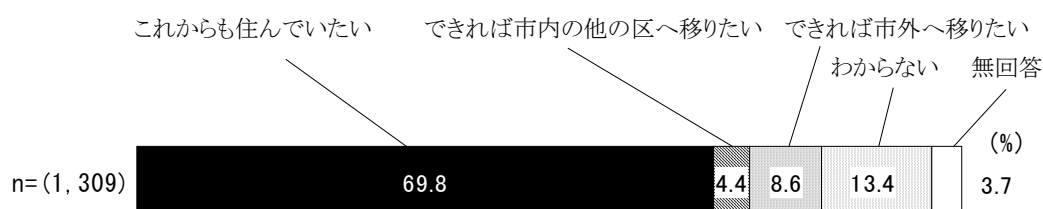
居住区別では、＜長期居住者＞の割合は、川崎区が 42.3%で最も多く、幸区、宮前区、多摩区、麻生区は3割台となっている。「3年未満」は、中原区が 33.0%で最も多く、次に多い高津区 (24.1%) と比べて、約1割の差となっている。(図表 1－3)

1-2 定住意向

◎ 「これからも住んでいたい」が69.8%

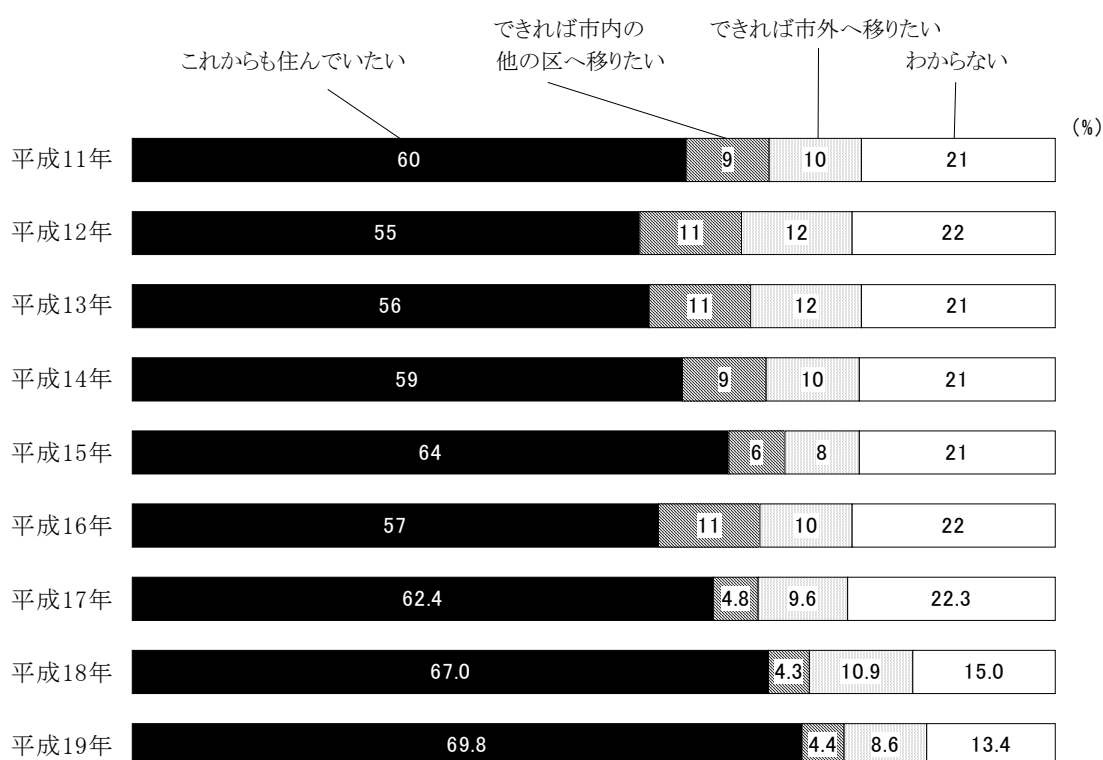
問2 これからも今のところにお住まいになりたいですか。(○は1つ)

図表1-4 定住意向



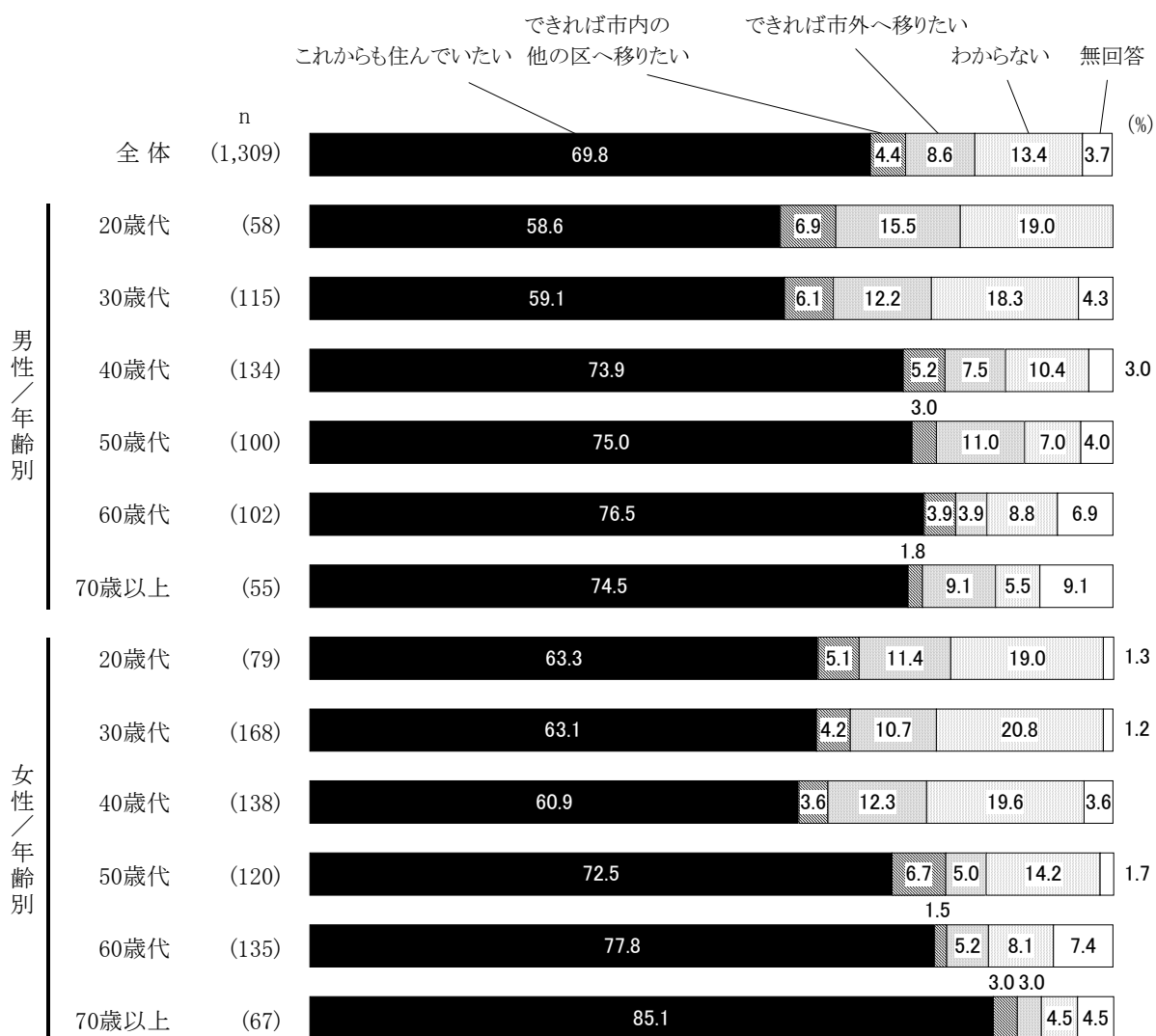
定住意向は、「これからも住んでいたい」は69.8%、「できれば市内の他の区へ移りたい」が4.4%、「できれば市外へ移りたい」が8.6%となっている。(図表1-4)

図表1-5 定住意向 (経年比較)



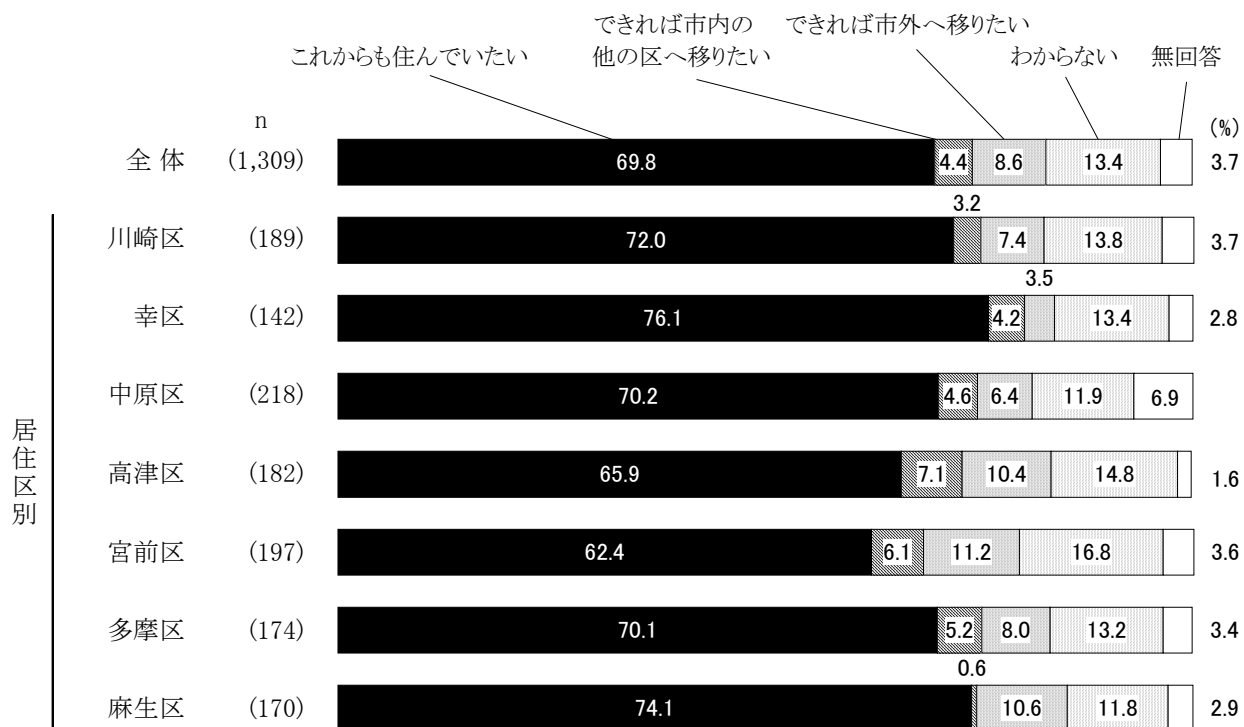
過去の推移では、平成18年度と比べて「これからも住んでいたい」は67.0%から69.8%へ2.8ポイントの増加となっている。一方、「できれば市内の他の区へ移りたい」(4.4%)と「できれば市外へ移りたい」(8.6%)をあわせた＜転居意向＞は15.2%から13.0%へ2.2ポイントの減少となっている。(図表1-5)

図表 1－6 定住意向 (性／年齢別)



性／年齢別では、「これからも住んでいたい」は、男性では、20歳代～30歳代が約6割、40歳代以上が7割台となっている。女性では、50歳代～60歳代が7割台、70歳以上が8割台半ばとなっている。＜転居意向＞は、男性の20歳代が2割台前半で多く、男性の60歳代、女性の60歳代以上が1割未満で少なくなっている。(図表1－6)

図表 1－7 定住意向 (居住区別)



居住区別では、「これからも住んでいたい」は、いずれの居住区でも6割～7割台で、＜転居意向＞は、高津区が1割台後半で最も多く、幸区が1割未満で最も少なくなっている。(図表 1－7)

1－3 転居意向の理由

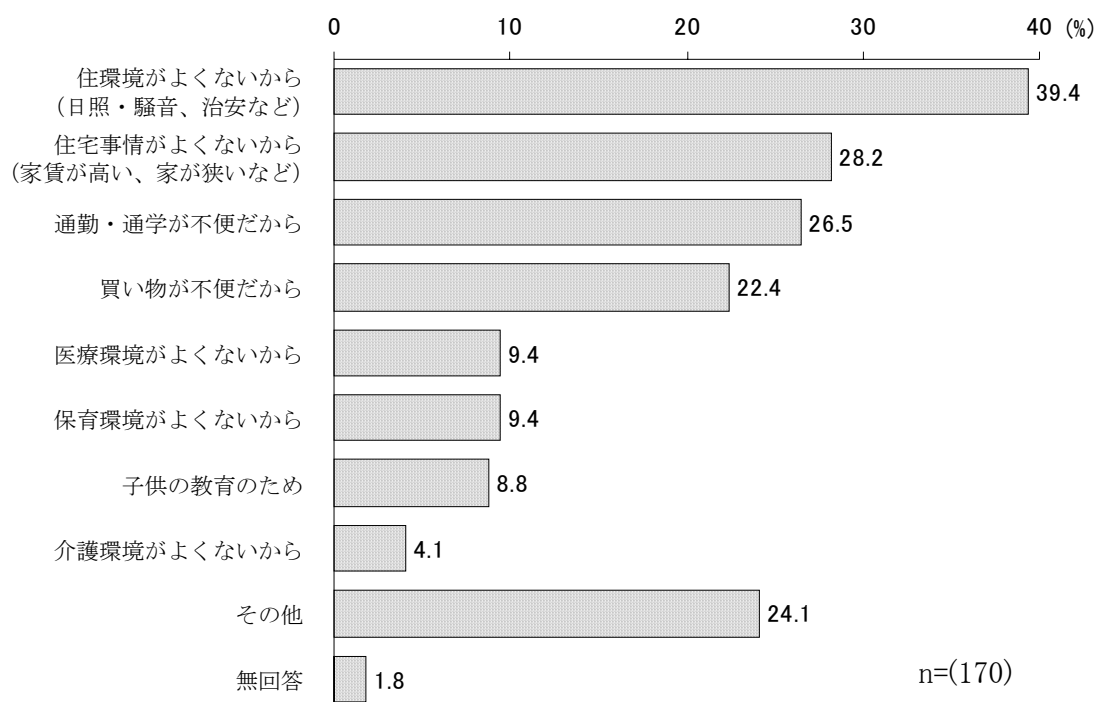
◎ 「住環境がよくないから（日照・騒音、治安など）」が39.4%

（問2で、「2. できれば市内の他の区へ移りたい」、「3. できれば市外へ移りたい」のいずれかに答えた方にうかがいます。）

問2－（1） 今のところから移りたい、または移る理由は何ですか。

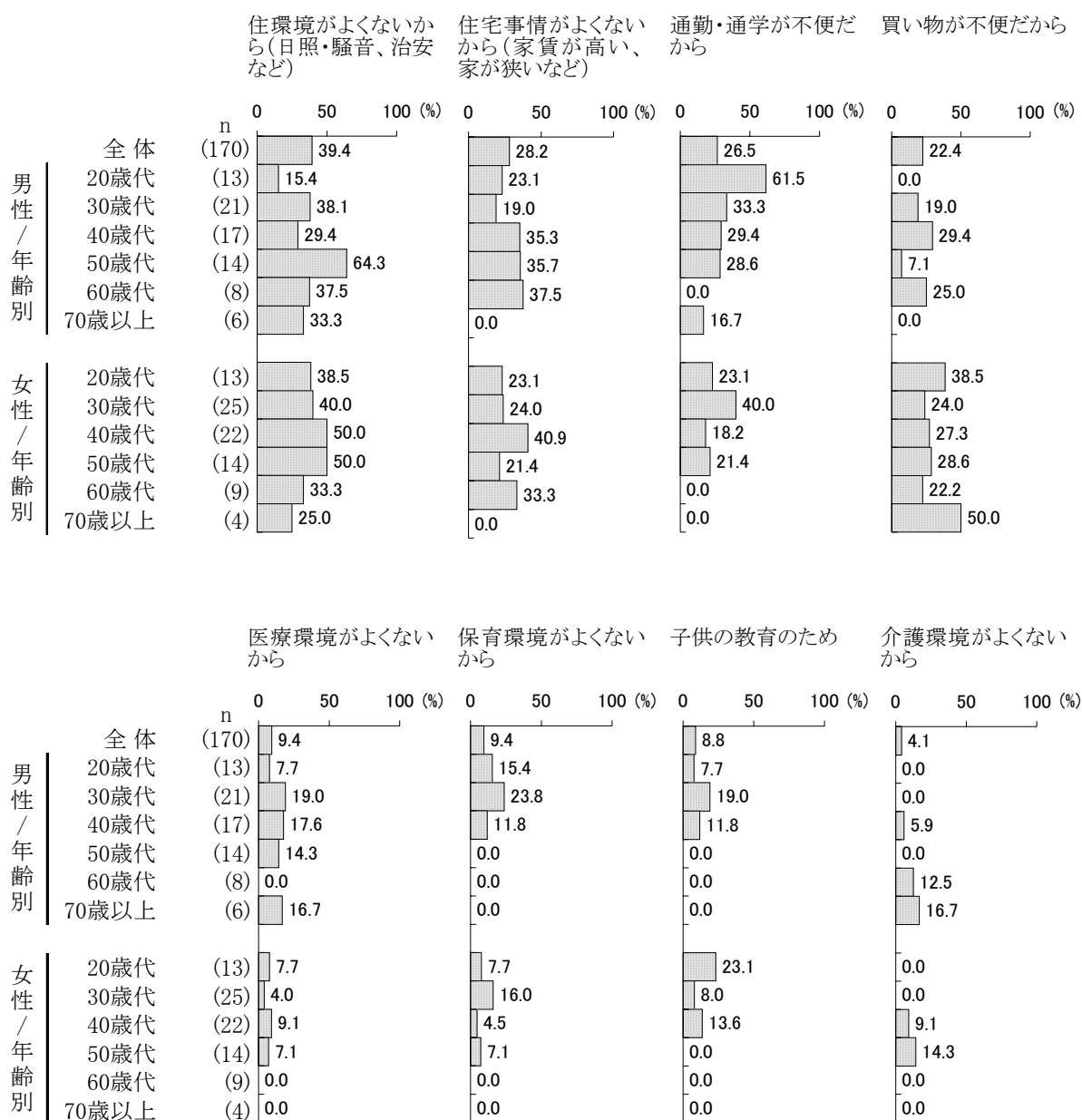
（あてはまるものすべてに○）

図表1－8 転居意向の理由



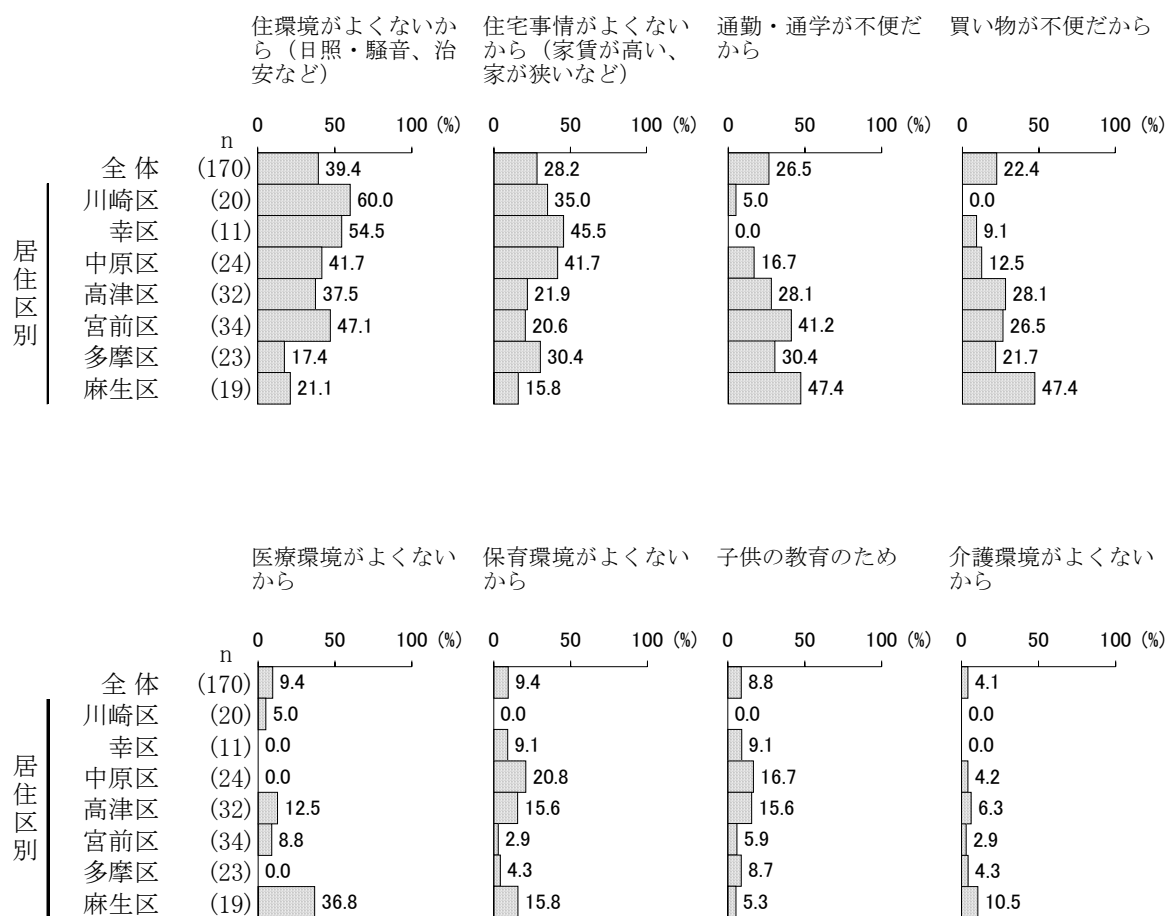
転居意向の理由は、「住環境がよくないから（日照・騒音、治安など）」が39.4%で最も多くなっている。以下「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」(28.2%)、「通勤・通学が不便だから」(26.5%)、「買い物が不便だから」(22.4%)と続いている。（図表1－8）

図表 1－9 転居意向の理由 (性／年齢別、上位 8 項目)



※性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1－9)

図表 1－10 転居意向の理由 (居住区別、上位 8 項目)



※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1－10)

1-4 転居先の希望（市内/市外）

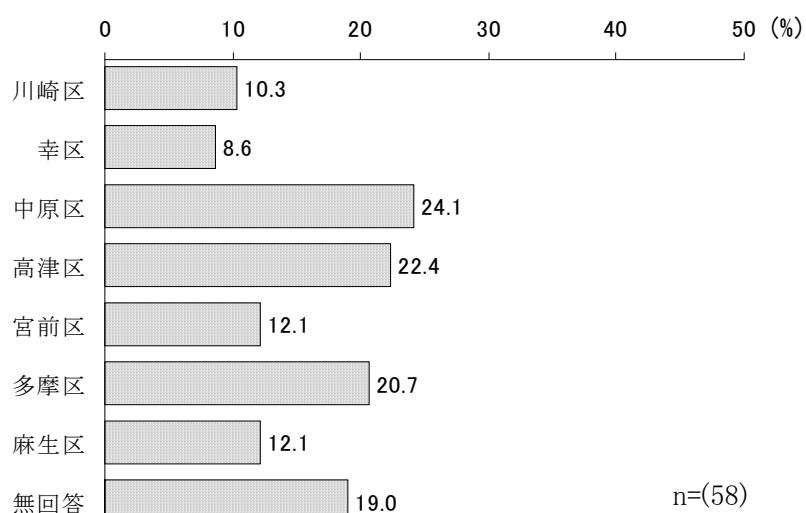
◎ 市外では「東京 23 区」、市内では「中原区」、「高津区」が多い

（問 2 で、「2. できれば市内の他の区へ移りたい」、「3. できれば市外へ移りたい」のいずれかに答えた方にうかがいます。）

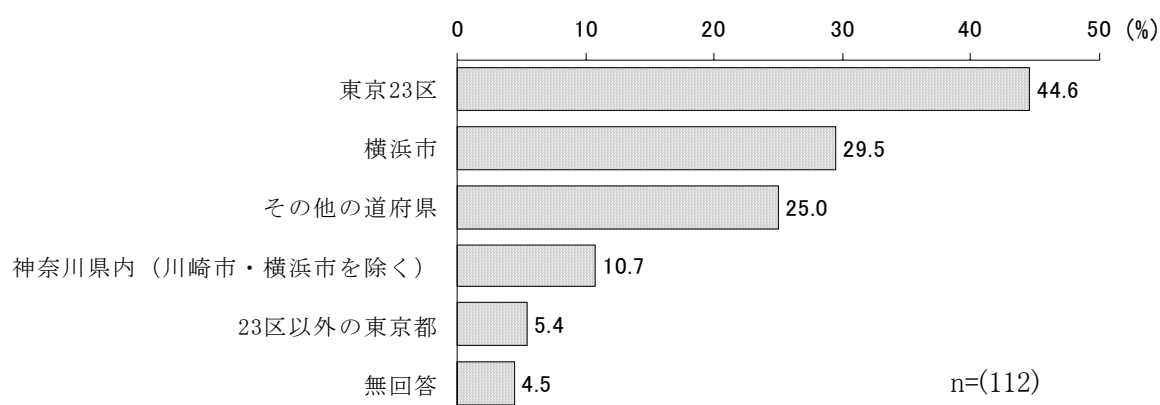
問 2-（2） どこに住みたいと思いますか。（○は 2 つまで）

図表 1-11 転居先の希望

【市内】

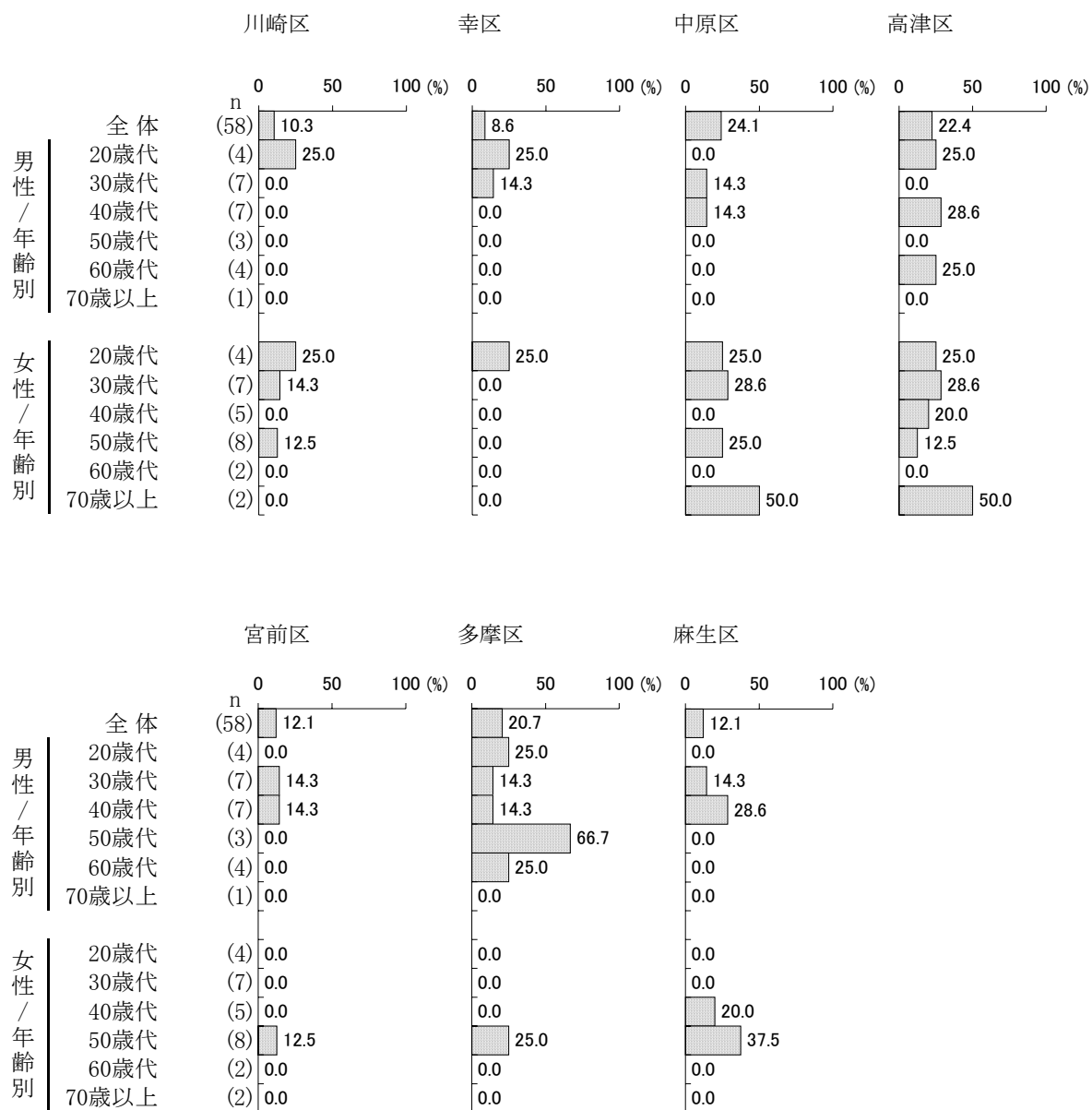


【市外】



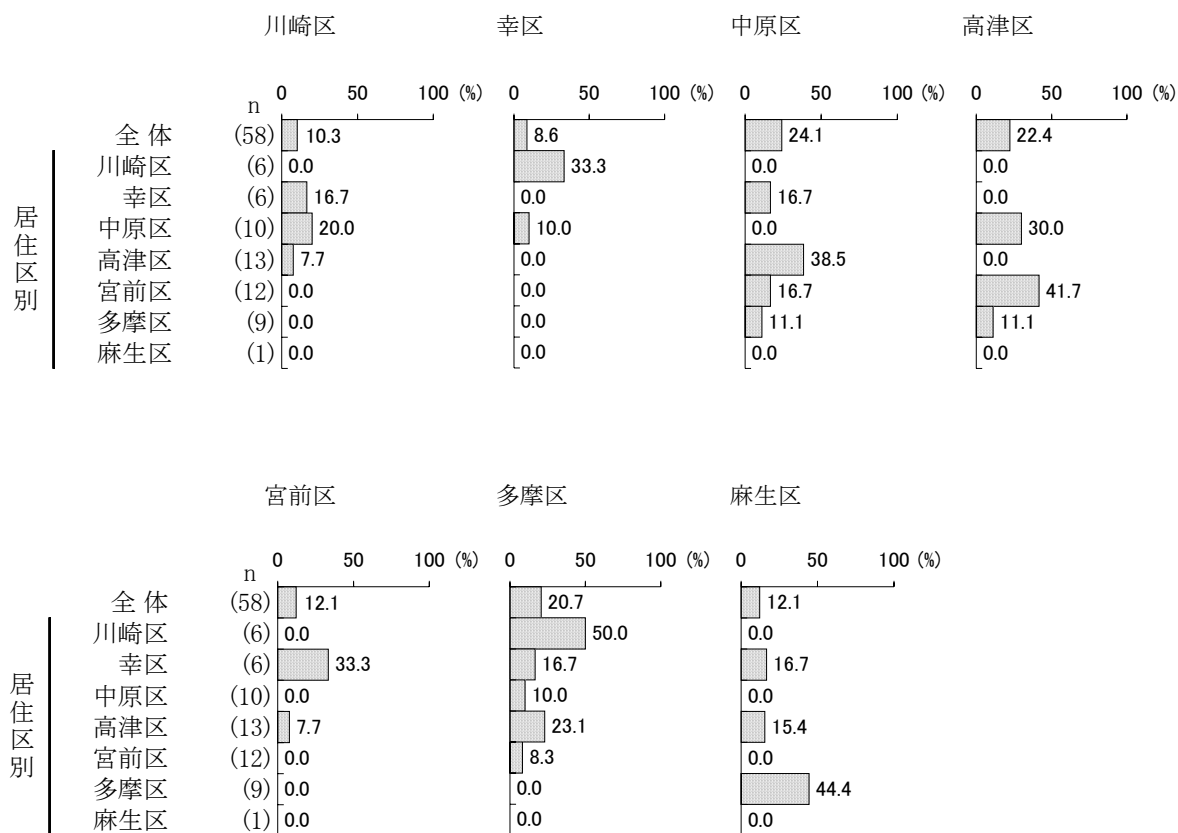
転居先の希望は、市内では、「中原区」(24.1%)、「高津区」(22.4%)、「多摩区」(20.7%)が多く、市外では、「東京 23 区」(44.6%)、「横浜市」(29.5%)が多く、両市外ともに市内の最も多かった区を上回っている。(図表 1-11)

図表 1-12 転居先の希望（市内）（性／年齢別）



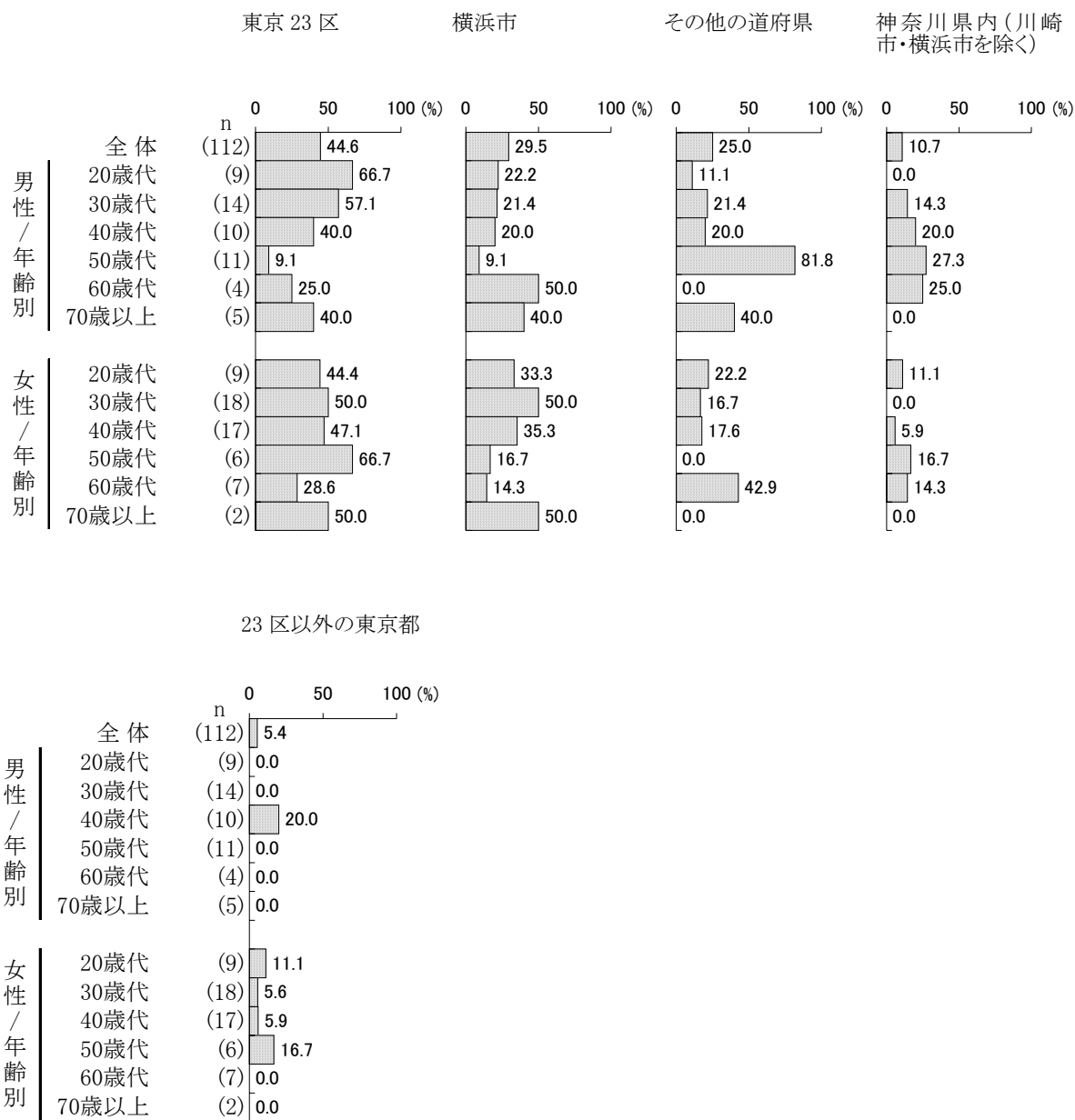
※性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1-12)

図表 1－13 転居先の希望（市内）（居住区別）



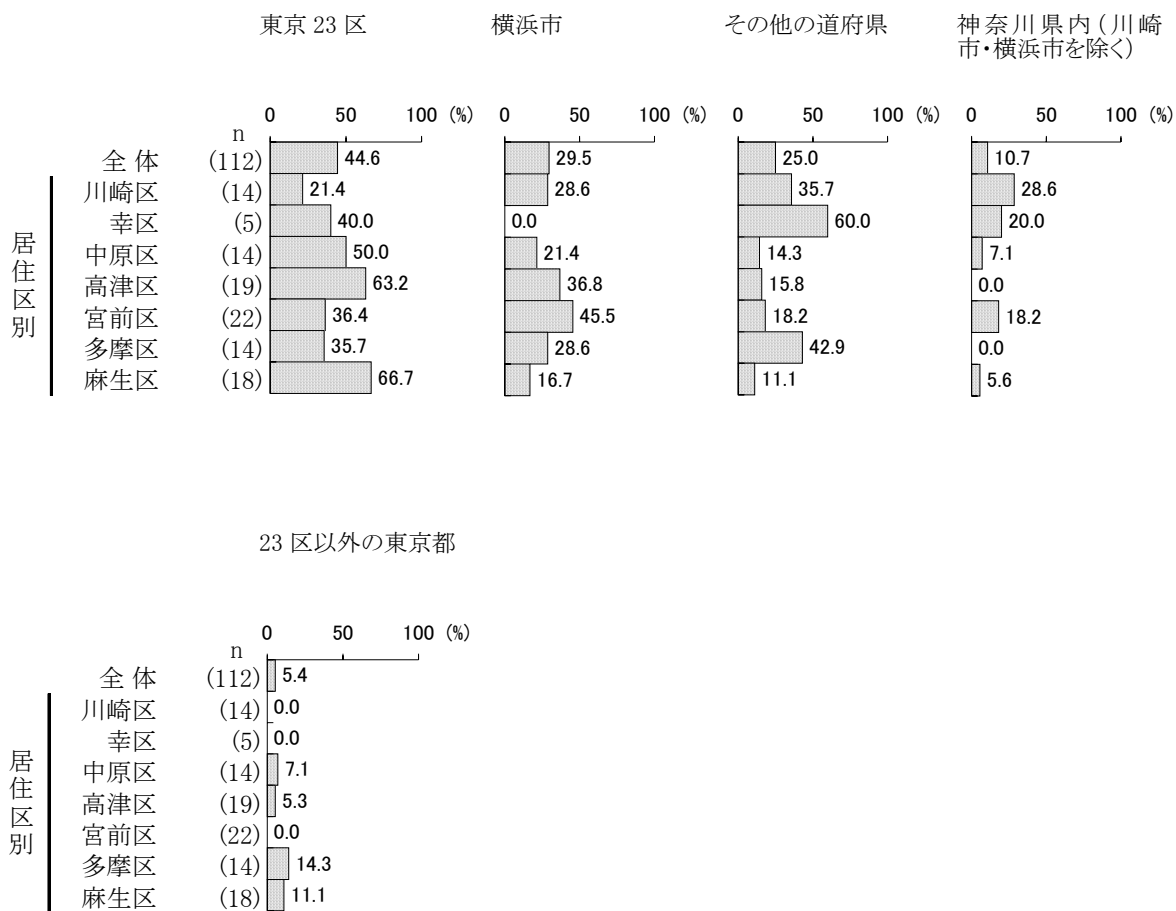
※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。（図表 1－13）

図表 1-14 転居先の希望（市外）（性／年齢別）



※性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。（図表 1-14）

図表 1－15 転居先の希望（市外）（居住区別）



※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。（図表 1－15）

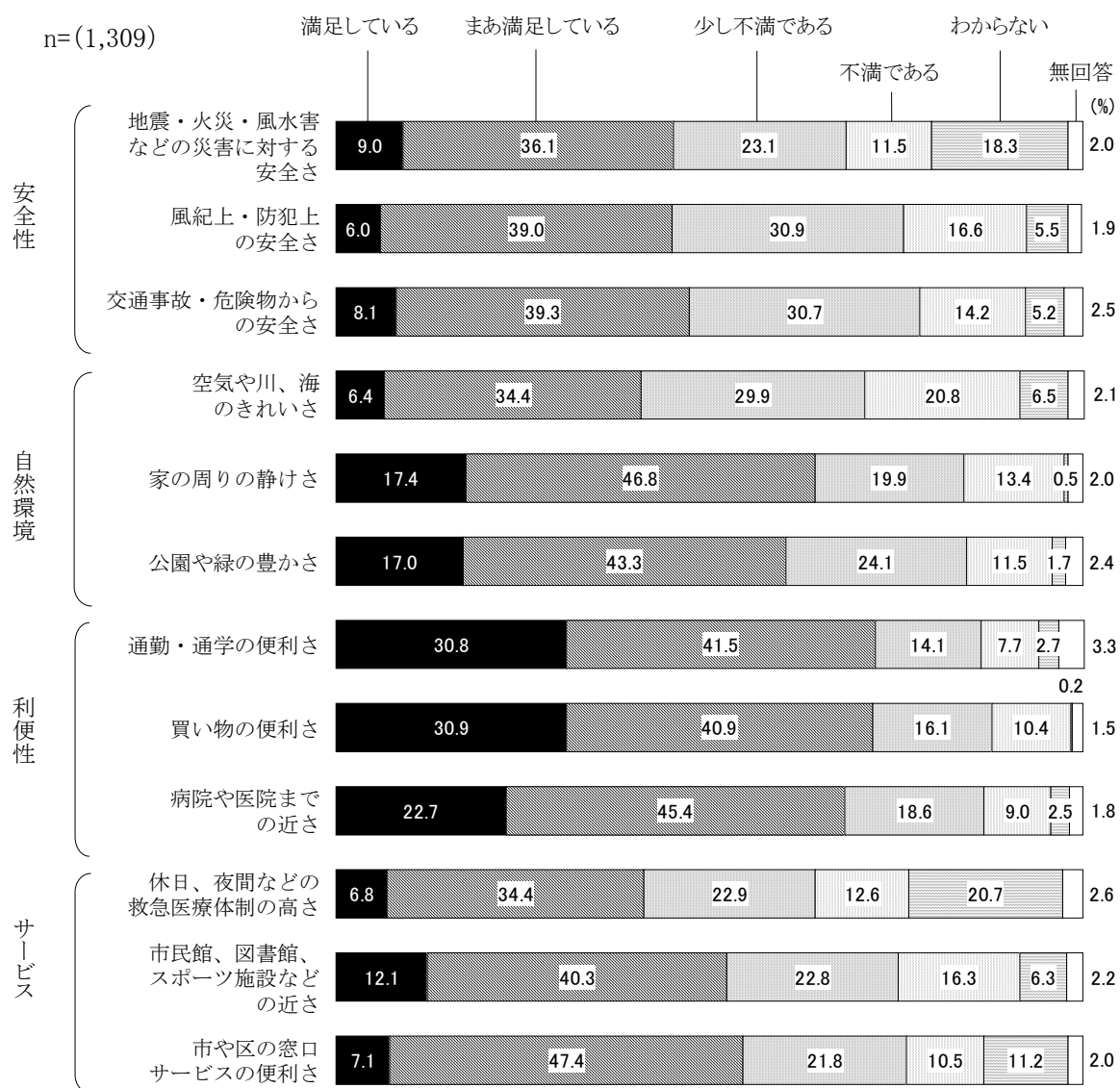
2 生活環境の評価について

2-1 生活環境の満足度

◎ <満足>が最も多いのは、「通勤・通学の便利さ」で72.3%

問3 あなたのお住まいの周りの生活環境について、うかがいます。
次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表 2-1 生活環境の満足度

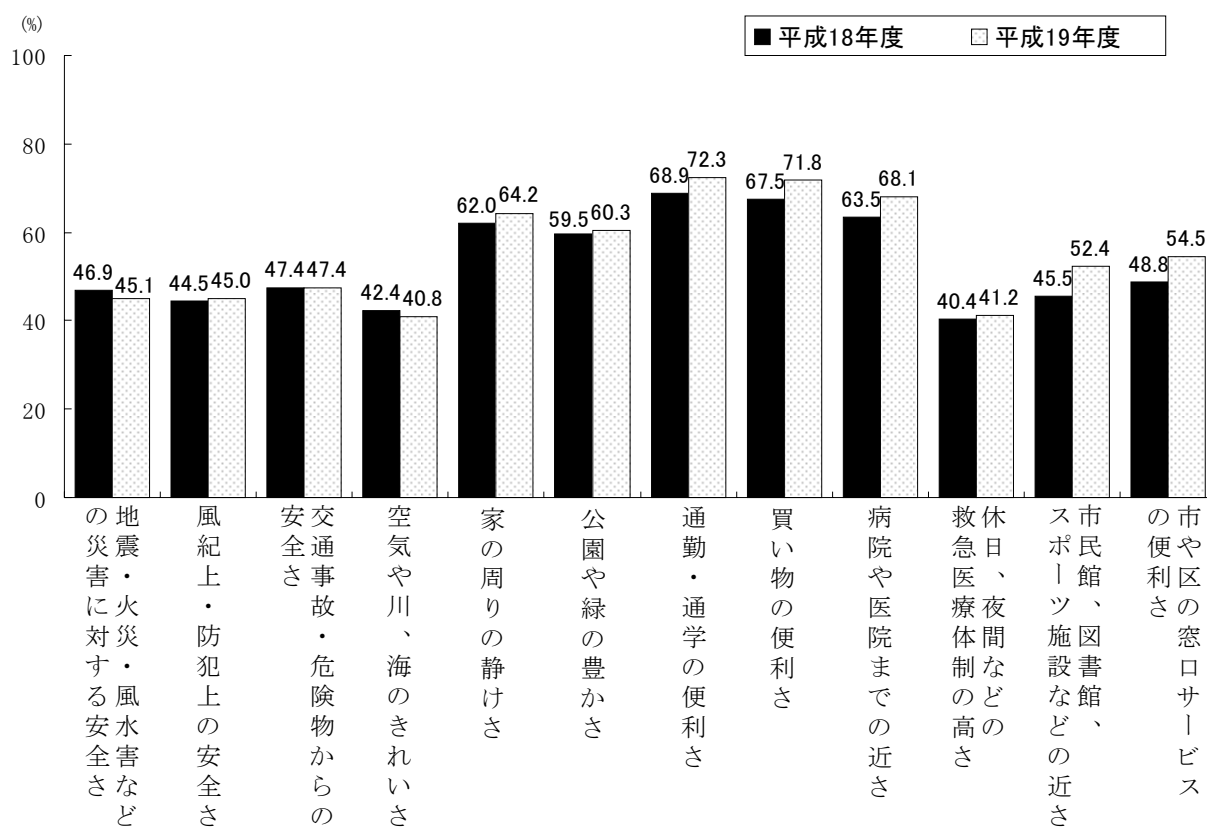


生活環境について、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>が多いのは、「通勤・通学の便利さ」(72.3%)、「買い物の便利さ」(71.8%)、「病院や医院までの近さ」(68.1%)などの『利便性』となっている。一方、<満足>が最も少ないのは「空気や川、海のきれいさ」(40.8%)となっている。(図表2-1)

図表 2-2 生活環境の満足度 (<満足>、前年比較)

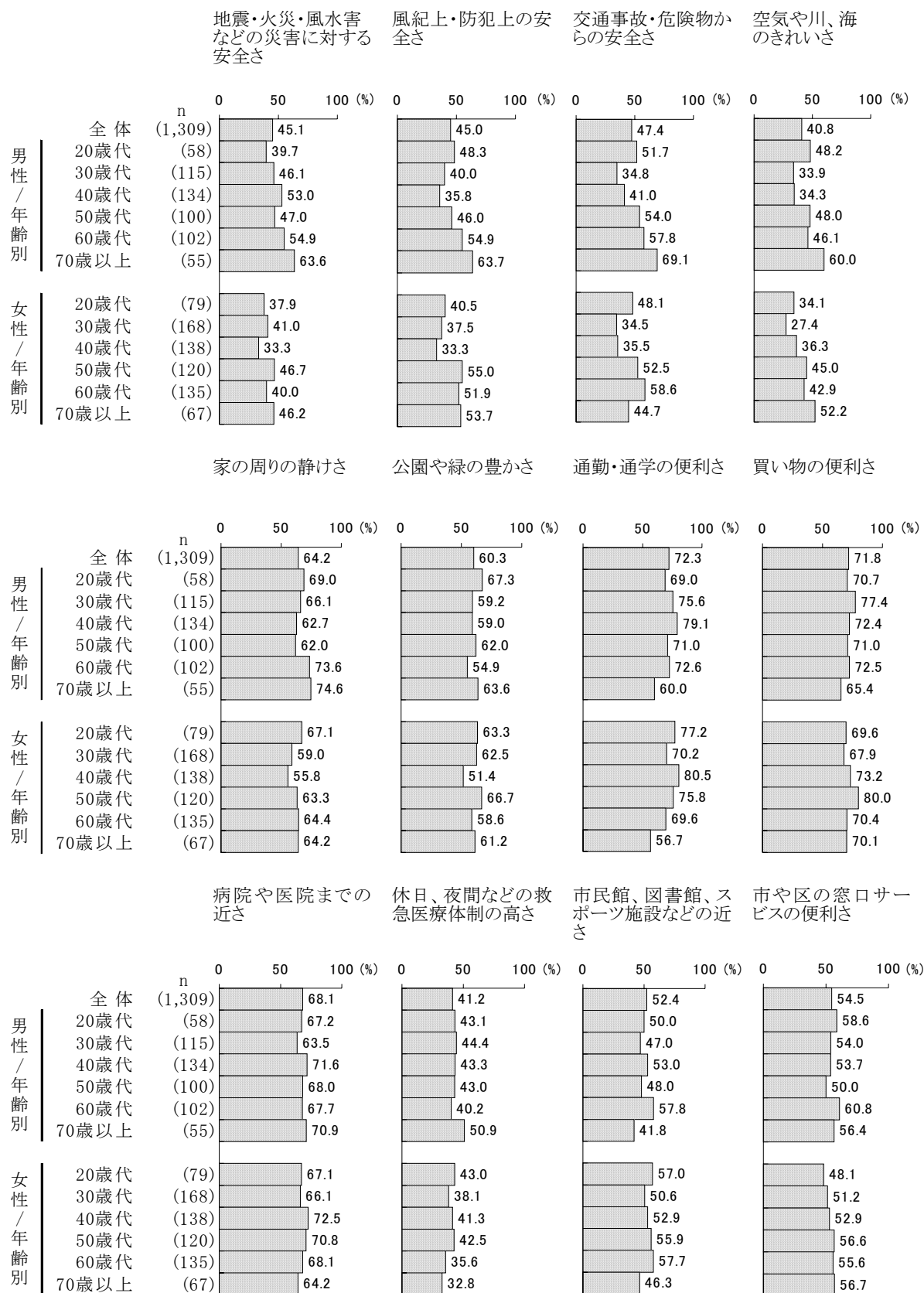
「満足している」+「まあ満足している」=合計の率で表示

(%)	地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
平成18年度	46.9	44.5	47.4	42.4	62.0	59.5	68.9	67.5	63.5	40.4	45.5	48.8
平成19年度	45.1	45.0	47.4	40.8	64.2	60.3	72.3	71.8	68.1	41.2	52.4	54.5



平成18年度と比較すると、満足度は、“交通事故・危険物からの安全さ”(47.4%)は、増減に変化がなく、“地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ”(45.1%)、“空気や川、海のきれいさ”(40.8%)の2項目では平成18年度を下回っているが、他の項目では増加している。特に“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”(52.4%)は6.9ポイントの増加となっている。(図表2-2)

図表 2-3 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)



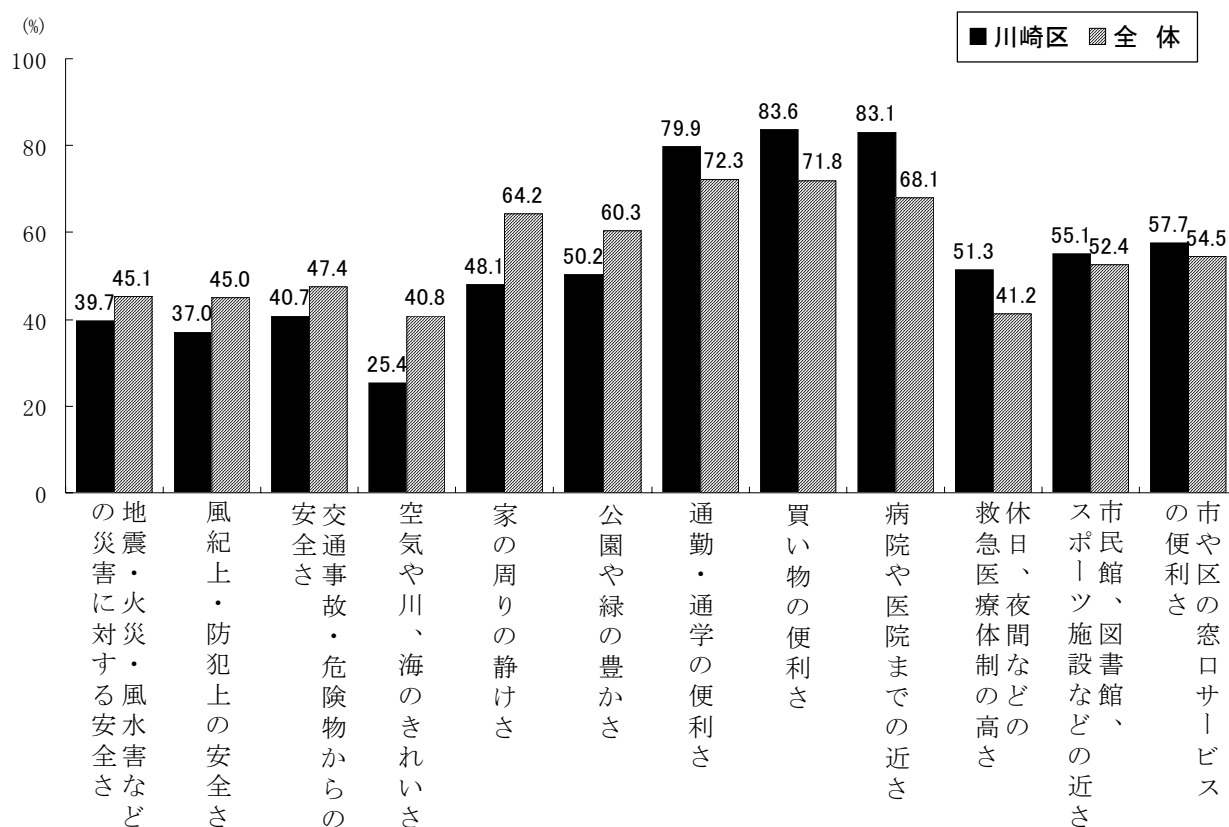
性／年齢別で満足度をみると、『安全性』は、男性の70歳以上が6割台前半～約7割で、同年代の女性と比べて1割以上多くなっており、特に“交通事故・危険物からの安全さ”では、2割以上の差となっている。一方、男女ともに30歳代～40歳代が“風紀上・防犯上の安全さ”、“交通事故・危険物からの安全さ”で3割台前半～4割台前半で少なくなっている。『自然環境』は、“空気や川、海のきれいさ”、“家の周りの静けさ”では、全体的に女性より男性の方が多くなっている。“公園や緑の豊かさ”は、いずれの年齢層でも5割～6割台となっている。『利便性』は、“通勤・通学の便利さ”は、男女ともに40歳代が約8割となっている。“買い物の便利さ”は、女性の50歳代が8割となっており、同年代の男性と比べて約1割の差となっている。“病院や医院までの近さ”は男女ともに6割～7割台となっている。『サービス』は、“休日、夜間などの救急医療体制の高さ”は、男性では、70歳以上が約5割で、他の年齢層では、4割台となっている。女性では、男性とは逆に70歳以上が3割台前半で最も少なく、同年代の男性と比べて約2割の差となっている。“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”は、男女ともに4割～5割台となっている。“市や区の窓口サービスの便利さ”は、男性の60歳代が約6割で多くなっている。(図表2-3)

図表 2－4 生活環境の満足度 (＜満足＞、居住区別)

「満足している」＋「まあ満足している」＝合計の率で表示

(%)	さど地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	風紀上・防犯上の安全さ	交通事故・危険物からの安全さ	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
川崎区	39.7	37.0	40.7	25.4	48.1	50.2	79.9	83.6	83.1	51.3	55.1	57.7
全 体	45.1	45.0	47.4	40.8	64.2	60.3	72.3	71.8	68.1	41.2	52.4	54.5

【川崎区生活環境満足度】

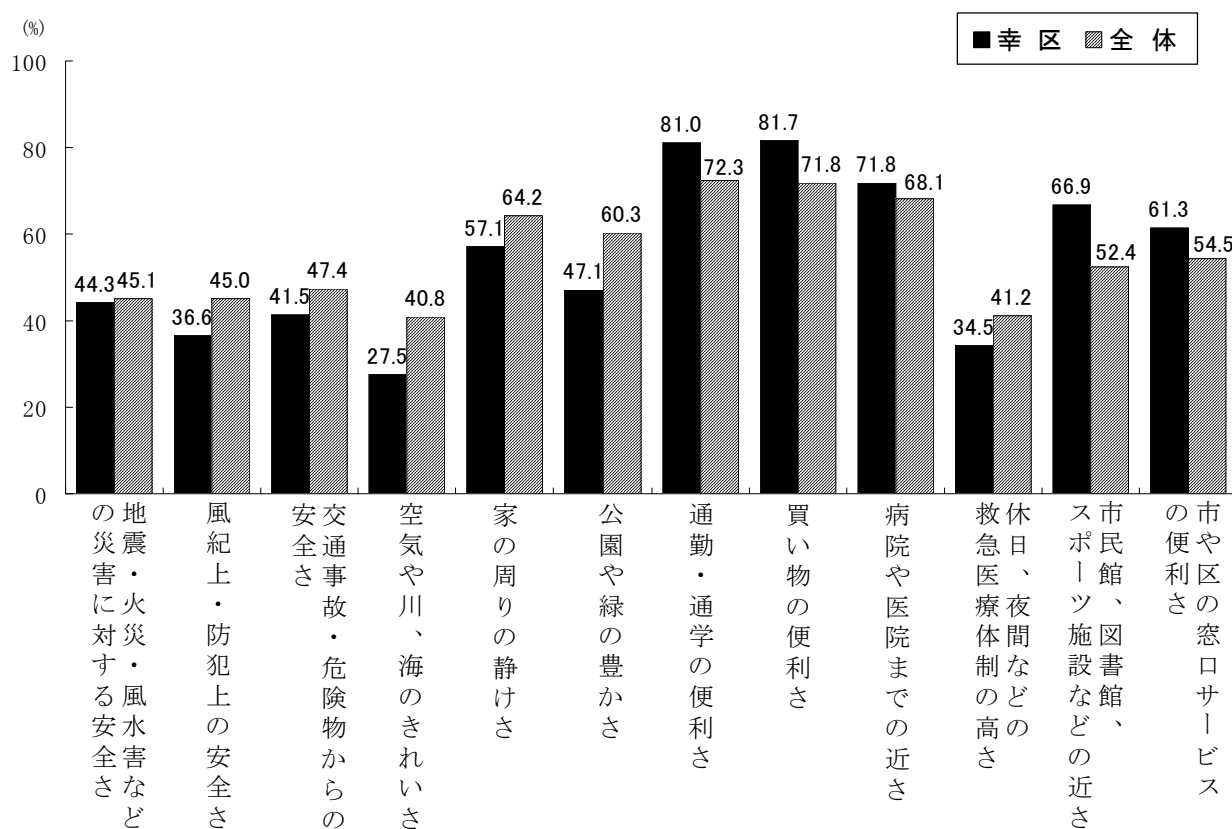


川崎区の生活環境満足度では、“買い物の便利さ” (83.6%)、“病院や医院までの近さ” (83.1%)、“休日、夜間などの救急医療体制の高さ” (51.3%) が市全体の満足度と比べて 10 ポイント以上上回っている。一方、“空気や川、海のきれいさ” (25.4%)、“家の周りの静けさ” (48.1%)、“公園や緑の豊かさ” (50.2%) では、市全体の満足度と比べて 10 ポイント以上下回っている。『利便性』、『サービス』では、市全体の満足度を上回り、『安全性』、『自然環境』では下回っている。(図表 2－4)

「満足している」＋「まあ満足している」＝合計の率で表示

(%)	さど地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	さ風紀上・防犯上の安全さ	の交通事故・危険物からの安全さ	さ空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
幸区	44.3	36.6	41.5	27.5	57.1	47.1	81.0	81.7	71.8	34.5	66.9	61.3
全体	45.1	45.0	47.4	40.8	64.2	60.3	72.3	71.8	68.1	41.2	52.4	54.5

【幸区生活環境満足度】

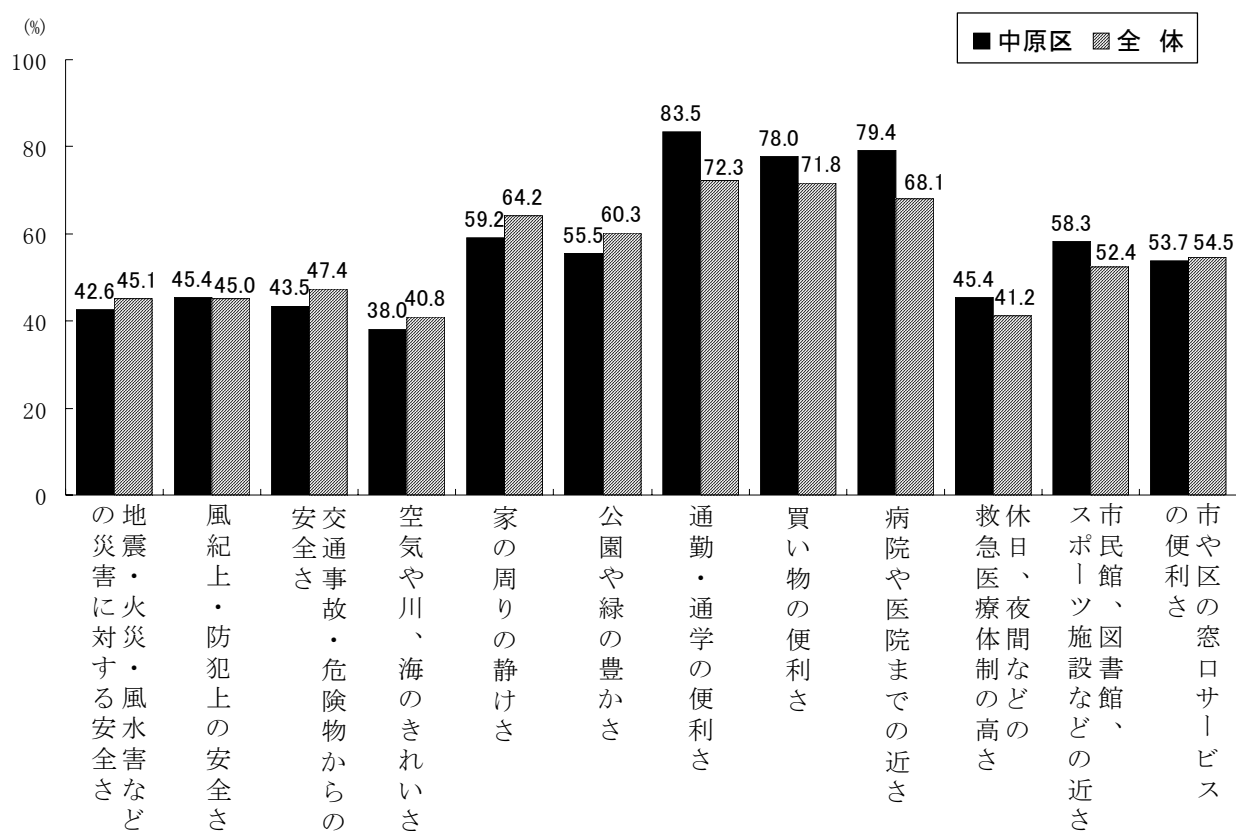


幸区の生活環境満足度では、“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”（66.9%）が市全体の満足度と比べて10ポイント以上上回っており、“買い物の便利さ”（81.7%）、“通勤・通学の便利さ”（81.0%）でも10ポイント近く上回っている。一方、“空気や川、海のきれいさ”（27.5%）、“公園や緑の豊かさ”（47.1%）では、市全体の満足度と比べて10ポイント以上下回っている。

「満足している」＋「まあ満足している」＝合計の率で表示

(%)	さど地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	さ風紀上・防犯上の安全さ	の交通事故・危険物からの安全さ	さ空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	の市や区の窓口サービスの便利さ
中原区	42.6	45.4	43.5	38.0	59.2	55.5	83.5	78.0	79.4	45.4	58.3	53.7
全 体	45.1	45.0	47.4	40.8	64.2	60.3	72.3	71.8	68.1	41.2	52.4	54.5

【中原区生活環境満足度】

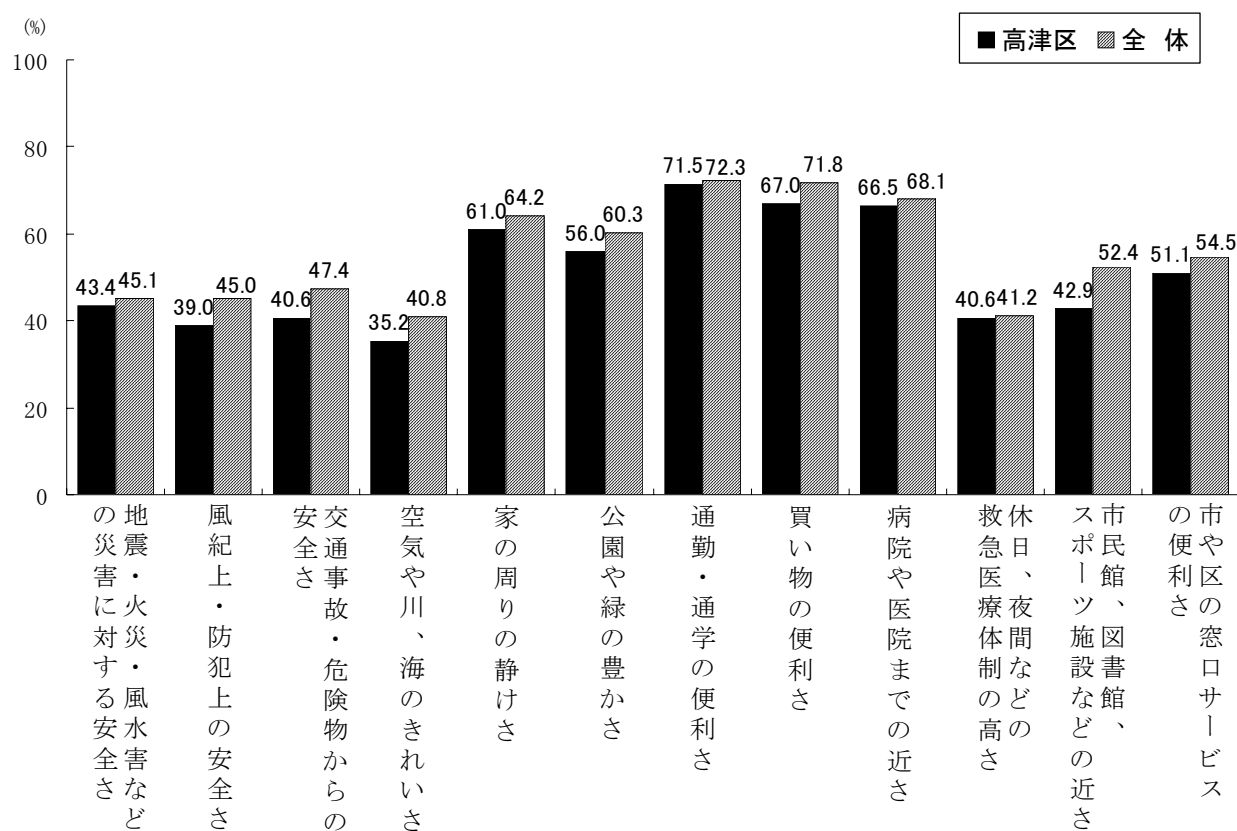


中原区の生活環境満足度では、“通勤・通学の便利さ” (83.5%)、“病院や医院までの近さ” (79.4%) が市全体の満足度と比べて 10 ポイント以上上回っている。一方、“家の周りの静けさ” (59.2%)、“公園や緑の豊かさ” (55.5%) では、5 ポイント程度、市全体の満足度を下回っている。

「満足している」＋「まあ満足している」＝合計の率で表示

(%)	さど地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	さ風紀上・防犯上の安全さ	の交通事故・危険物からの安全さ	さ空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
高津区	43.4	39.0	40.6	35.2	61.0	56.0	71.5	67.0	66.5	40.6	42.9	51.1
全 体	45.1	45.0	47.4	40.8	64.2	60.3	72.3	71.8	68.1	41.2	52.4	54.5

【高津区生活環境満足度】

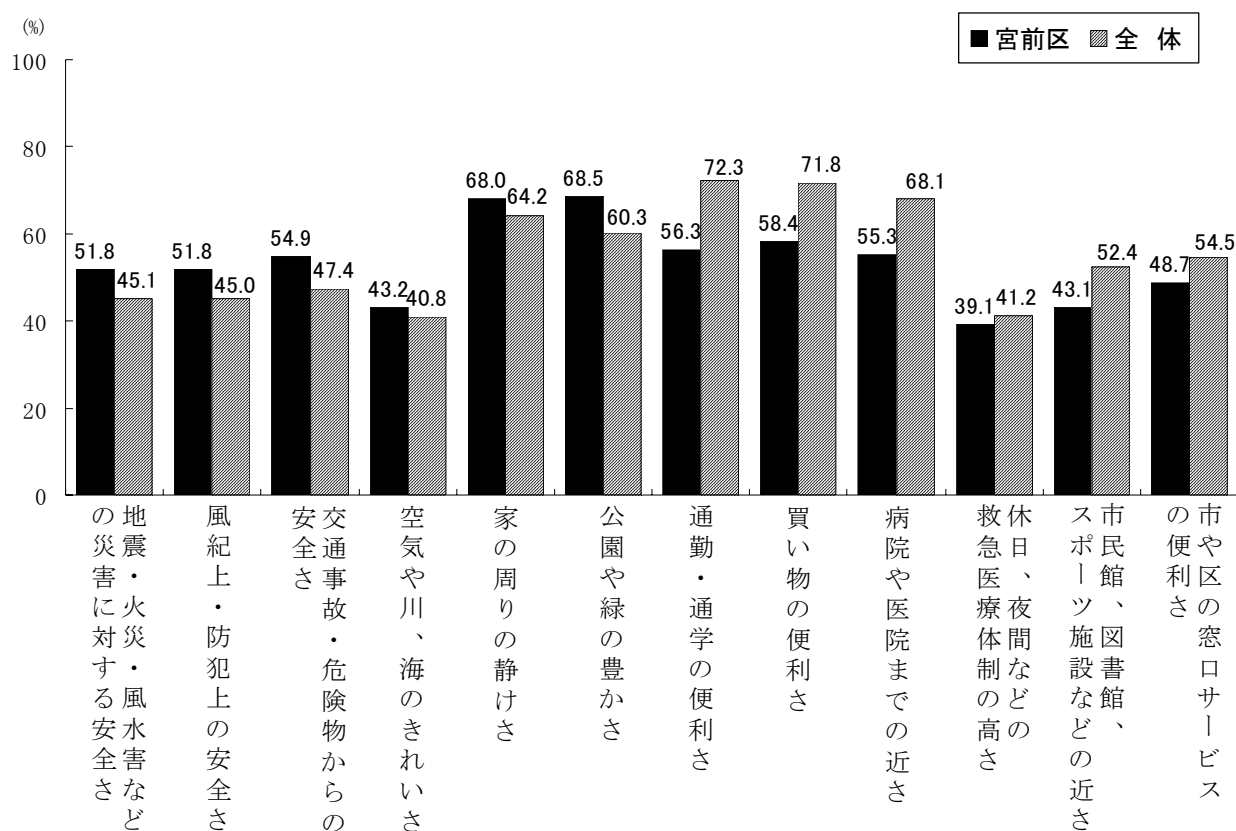


高津区的生活環境満足度では、全ての項目で市全体の満足度と比べてやや下回っている。特に“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”（42.9%）で市全体の満足度と比べて9.5ポイント下回っている。

「満足している」＋「まあ満足している」＝合計の率で表示

(%)	さど地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	さ風紀上・防犯上の安全さ	の交通事故・危険物からの安全さ	さ空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	の市や区の窓口サービスの便利さ
宮前区	51.8	51.8	54.9	43.2	68.0	68.5	56.3	58.4	55.3	39.1	43.1	48.7
全 体	45.1	45.0	47.4	40.8	64.2	60.3	72.3	71.8	68.1	41.2	52.4	54.5

【宮前区生活環境満足度】

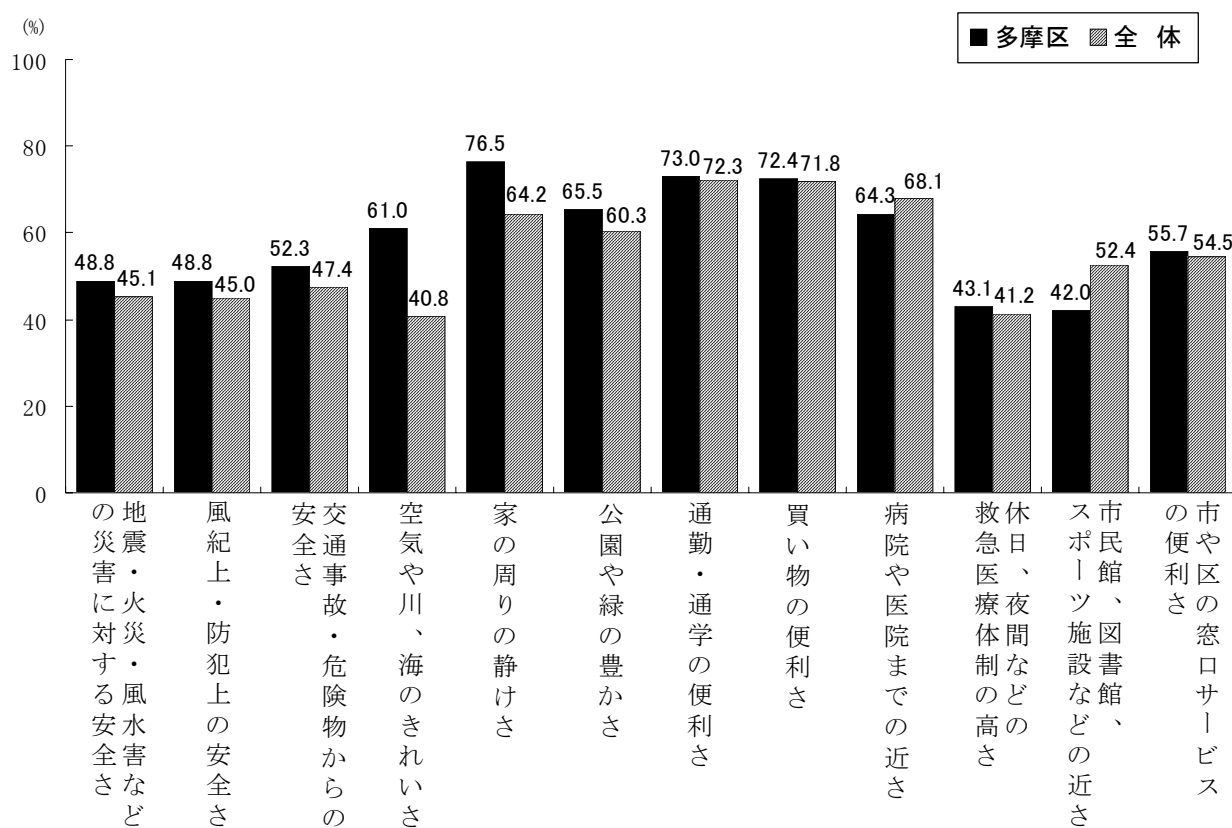


宮前区の生活環境満足度では、『安全性』、『自然環境』に関わる項目は、市全体の満足度を上回っている。一方、『利便性』で市全体の満足度と比べて10ポイント以上下回っており、『サービス』でも市全体の満足度を下回っている。

「満足している」＋「まあ満足している」＝合計の率で表示

(%)	さど地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	さ風紀上・防犯上の安全さ	の交通事故・危険物からの安全さ	さ空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
多摩区	48.8	48.8	52.3	61.0	76.5	65.5	73.0	72.4	64.3	43.1	42.0	55.7
全 体	45.1	45.0	47.4	40.8	64.2	60.3	72.3	71.8	68.1	41.2	52.4	54.5

【多摩区生活環境満足度】

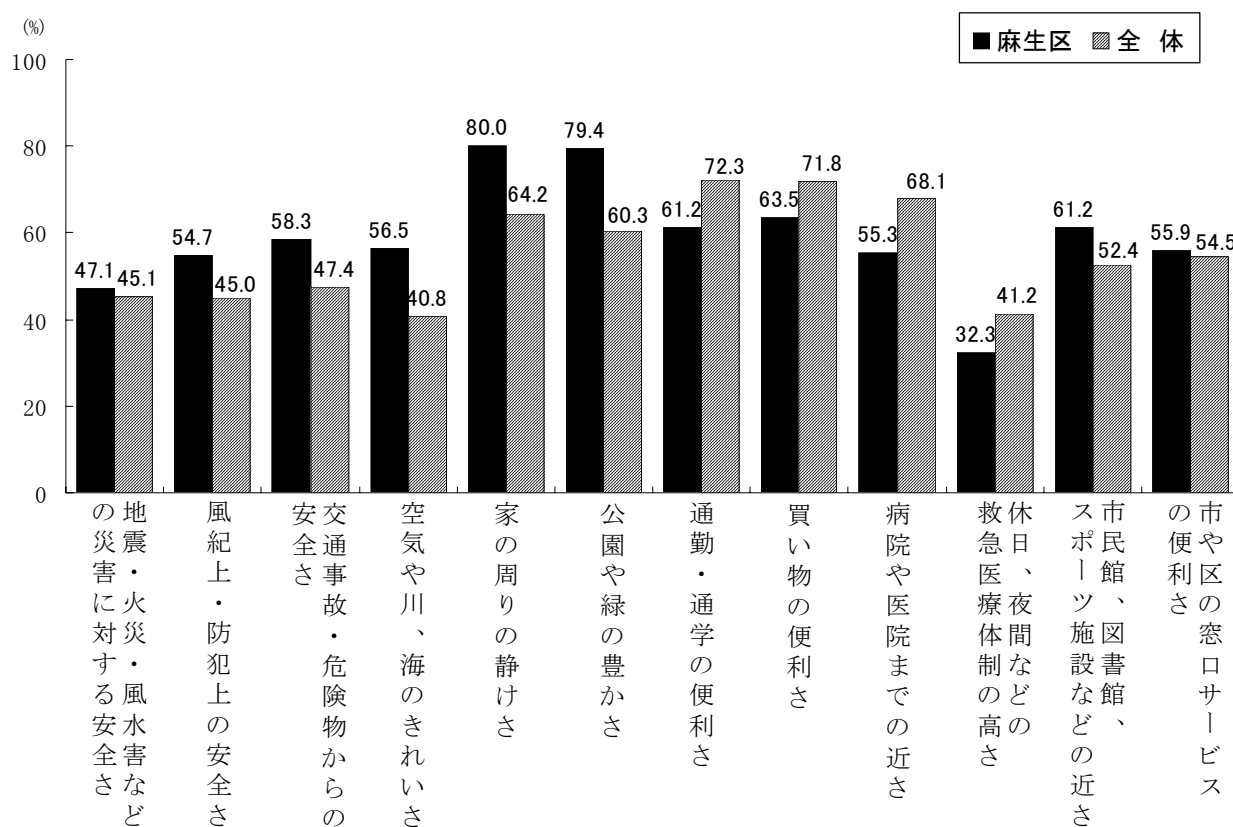


多摩区の生活環境満足度では、『安全性』、『自然環境』で市全体の満足度を上回っており、特に“空気や川、海のきれいさ”（61.0%）で市全体の満足度と比べて20ポイント以上、“家の周りの静けさ”（76.5%）は、市全体の満足度と比べて10ポイント以上上回っている。一方、“市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ”（42.0%）は市全体の満足度と比べて10ポイント以上下回っている。

「満足している」＋「まあ満足している」＝合計の率で表示

(%)	さど地震・火災・風水害などの災害に対する安全さ	さ風紀上・防犯上の安全さ	の交通事故・危険物からの安全さ	さ空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの近さ	休日、夜間などの救急医療体制の高さ	市民館、図書館、スポーツ施設などの近さ	市や区の窓口サービスの便利さ
麻生区	47.1	54.7	58.3	56.5	80.0	79.4	61.2	63.5	55.3	32.3	61.2	55.9
全 体	45.1	45.0	47.4	40.8	64.2	60.3	72.3	71.8	68.1	41.2	52.4	54.5

【麻生区生活環境満足度】



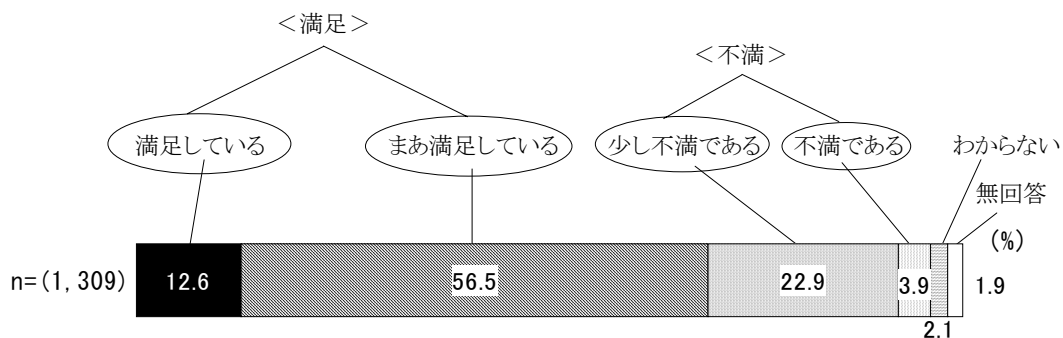
麻生区の生活環境満足度では、『安全性』、『自然環境』で市全体の満足度を上回っており、特に“家の周りの静けさ”（80.0%）“公園や緑の豊かさ”（79.4%）、“空気や川、海のきれいさ”（56.5%）は、市全体の満足度と比べて15ポイント以上上回っている。一方、『利便性』では、市全体の満足度を下回っており、“通勤・通学の便利さ”（61.2%）、“病院や医院までの近さ”（55.3%）は市全体の満足度と比べて10ポイント以上下回っている。

2-2 総合的な生活環境の満足度

◎ <満足>が69.1%

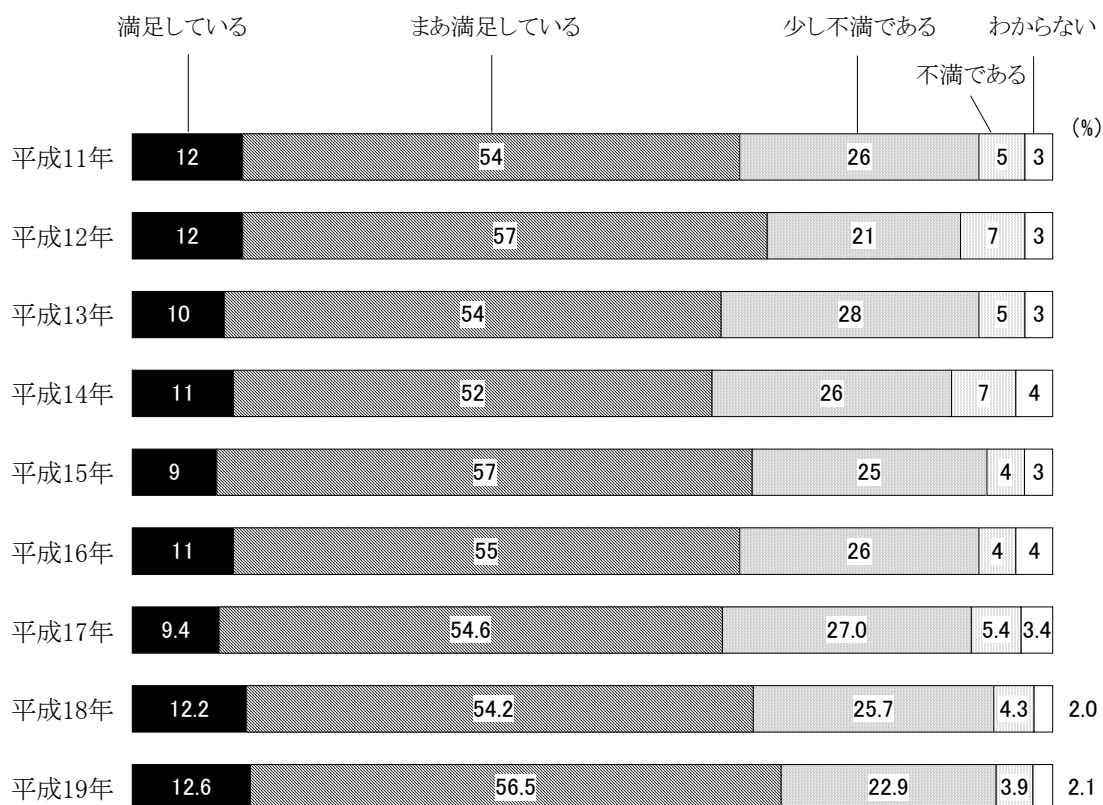
問4 地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域に、どの程度満足していますか。(○は1つ)

図表2-5 総合的な生活環境の満足度



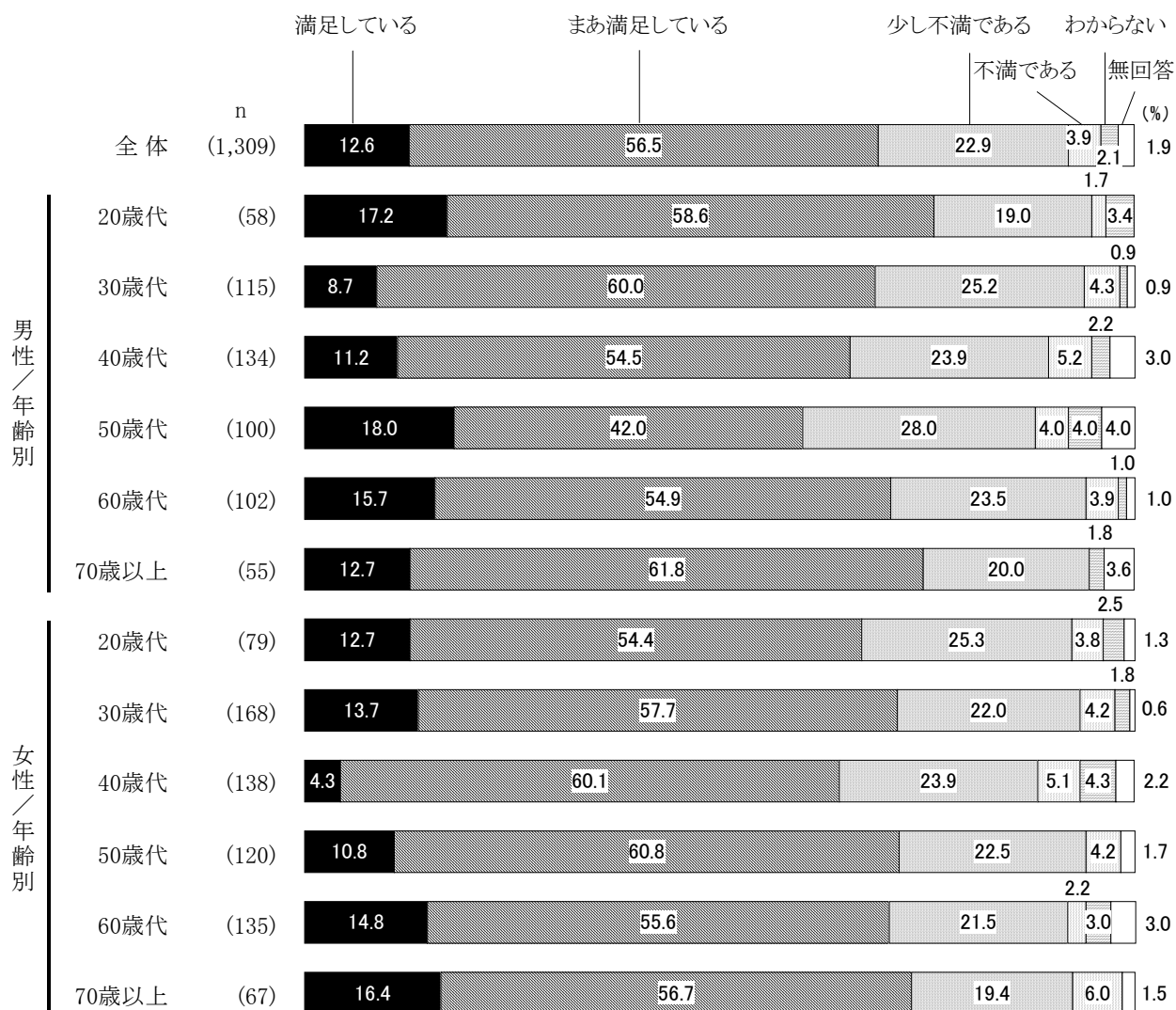
総合的な生活環境は、「満足している」(12.6%)、「まあ満足している」(56.5%)を合わせた<満足>は69.1%、一方、「少し不満である」(22.9%)と「不満である」(3.9%)を合わせた<不満>は26.8%となっている。(図表2-5)

図表 2－6 総合的な生活環境の満足度 (経年比較)



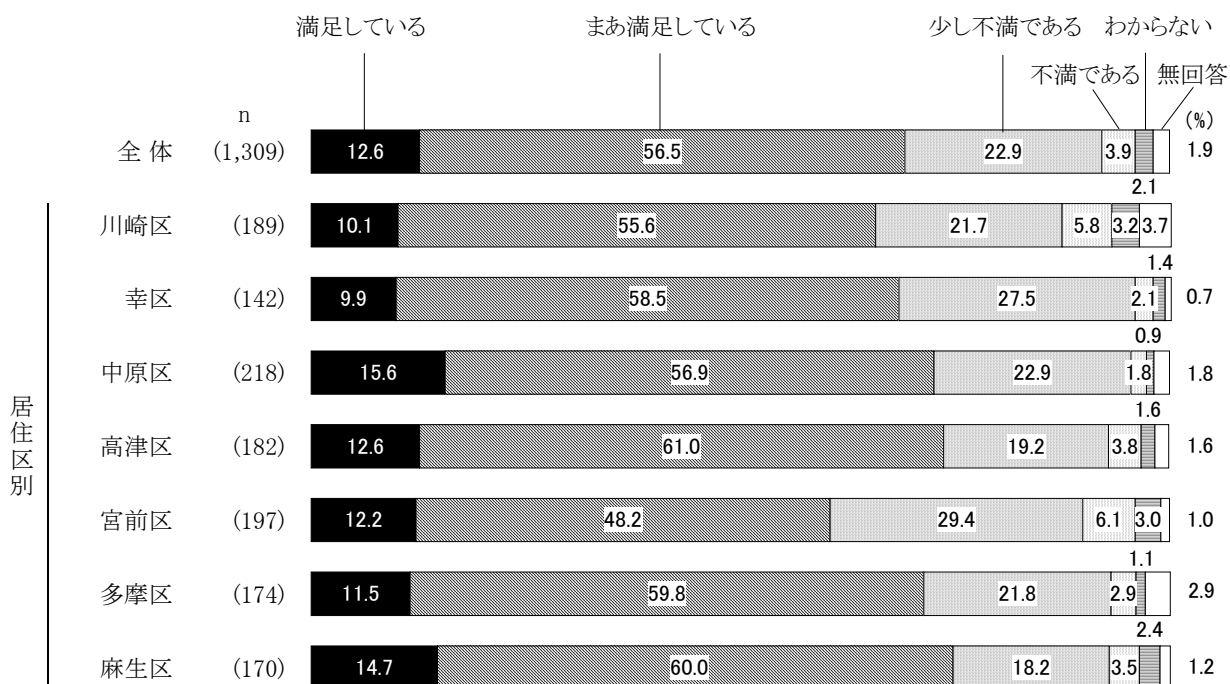
過去の推移では、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた＜満足＞は、平成17年度から増加の傾向がみられ、「少し不満である」(22.9%)と「不満である」(3.9%)をあわせた＜不満＞は、過去8年間で最も少なくなっている。(図表2－6)

図表 2－7 総合的な生活環境の満足度 (性／年齢別)



性／年齢別では、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた＜満足＞は、いずれの年齢層でも6割～7割台と多くなっている。一方、「少し不満である」と「不満である」をあわせた＜不満＞は、どの年代も概ね2割台となっているが、男性の50歳代では3割台前半となっている。(図表2－7)

図表 2－8 総合的な生活環境の満足度 (居住区別)



居住区別では、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた＜満足＞は、麻生区が7割台半ば、高津区、中原区、多摩区が7割台前半となっている。一方、「少し不満である」と「不満である」をあわせた＜不満＞は、どの区も概ね2割台となっているが宮前区では3割台半ばとなっている。(図表 2－8)

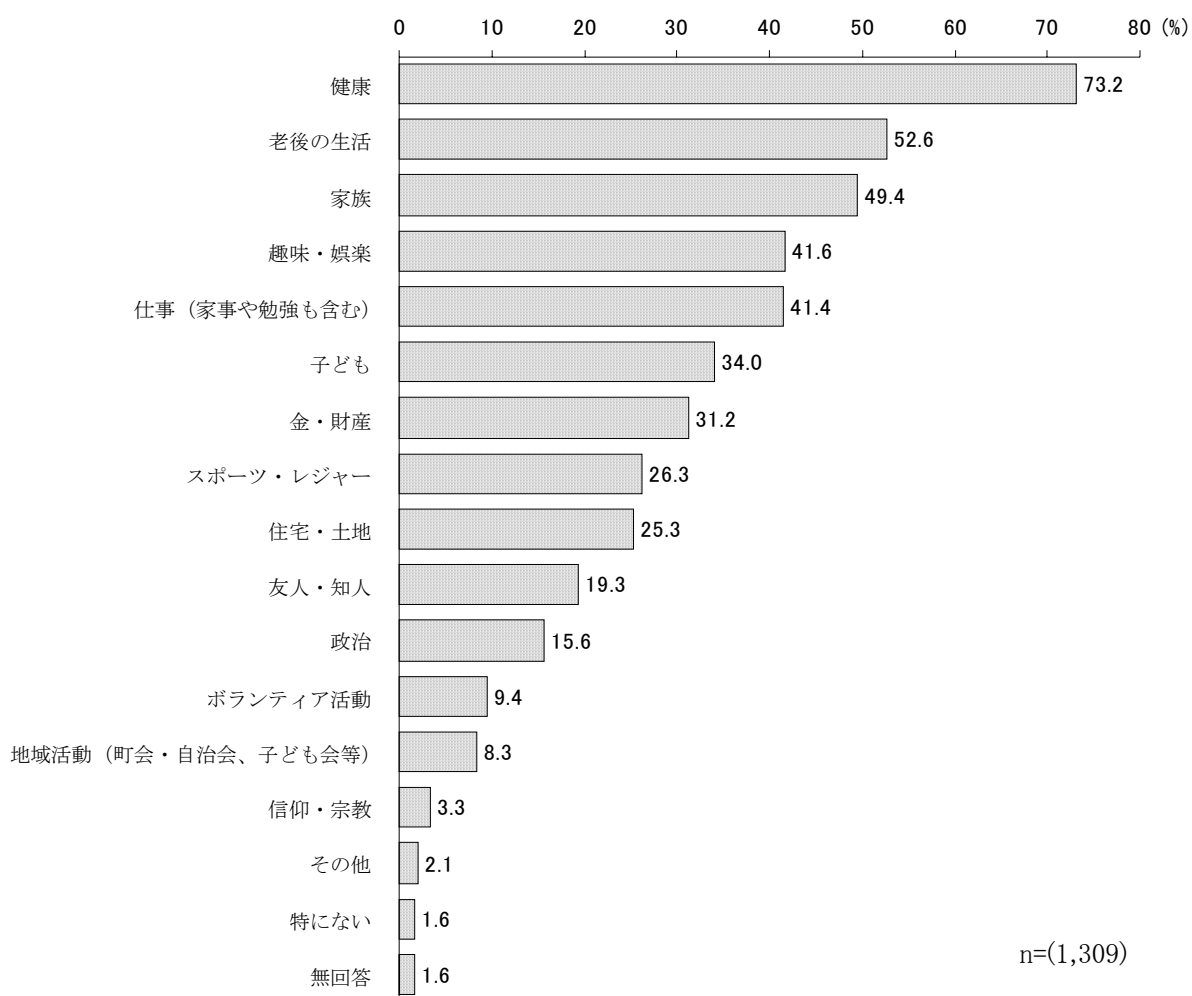
3 関心ごとと行動範囲について

3-1 関心を持っていること

◎ 「健康」が73.2%

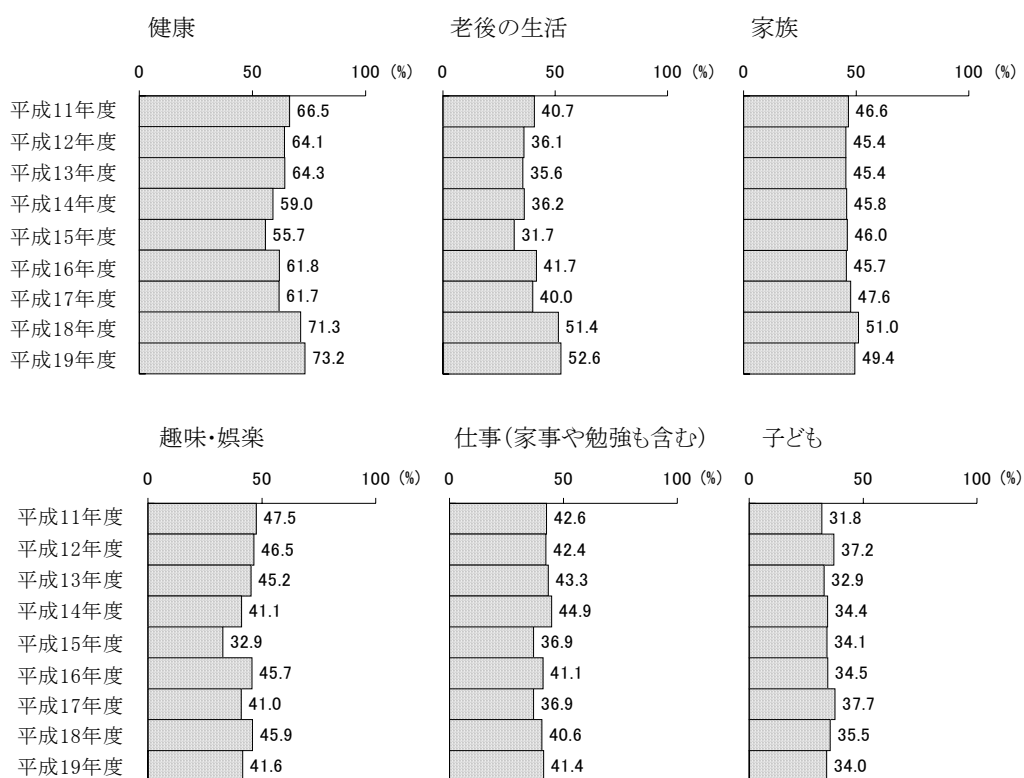
問5 現在、特に関心をお持ちのことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-1 関心を持っていること



関心を持っていることは、「健康」が73.2%で最も多くなっている。以下「老後の生活」(52.6%)、「家族」(49.4%)、「娯楽・趣味」(41.6%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(41.4%)、「子ども」(34.0%)、「金・財産」(31.2%)と続いている。(図表3-1)

図表 3-2 関心を持っていること (経年比較、上位6項目)

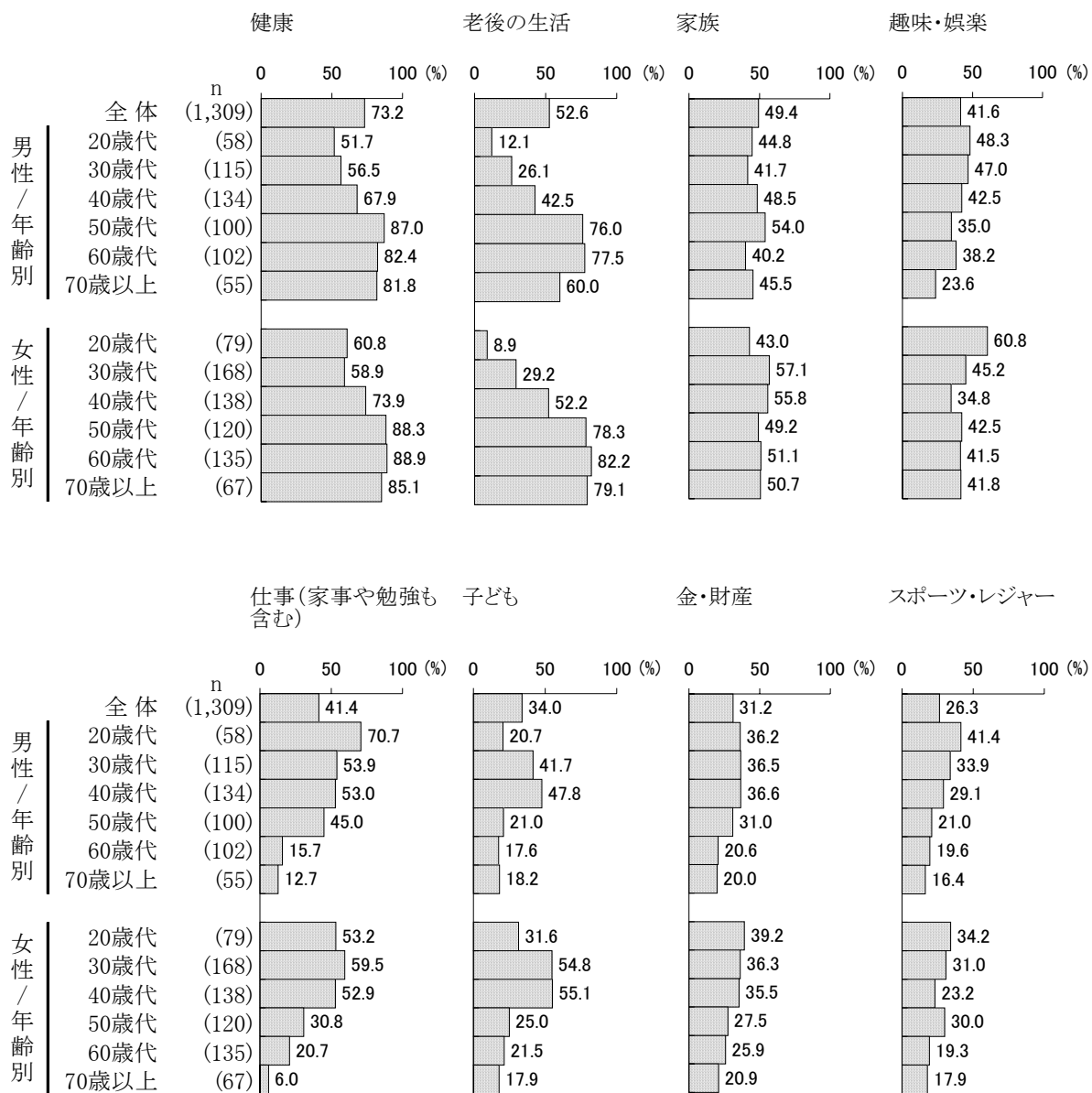


(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成11年度	健康 65.5	趣味・娯楽 47.5	家族 46.6	仕事(家事や勉強も含む) 42.6	老後の生活 40.7	子ども 31.8
平成12年度	健康 64.1	趣味・娯楽 46.5	家族 45.4	仕事(家事や勉強も含む) 42.4	子ども 37.2	老後の生活 36.1
平成13年度	健康 64.3	家族 45.4	趣味・娯楽 45.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.3	老後の生活 35.6	子ども 32.9
平成14年度	健康 59.0	家族 45.8	仕事(家事や勉強も含む) 44.9	趣味・娯楽 41.1	老後の生活 36.2	子ども 34.4
平成15年度	健康 55.7	家族 46.0	仕事(家事や勉強も含む) 36.9	子ども 34.1	趣味・娯楽 32.9	老後の生活 31.7
平成16年度	健康 61.8	家族/趣味・娯楽 45.7		老後の生活 41.7	仕事(家事や勉強も含む) 41.1	子ども 34.5
平成17年度	健康 61.7	家族 47.6	趣味・娯楽 41.0	老後の生活 40.0	子ども 37.7	仕事(家事や勉強も含む) 36.9
平成18年度	健康 71.3	老後の生活 51.4	家族 51.0	趣味・娯楽 45.9	仕事(家事や勉強も含む) 40.6	子ども 35.5
平成19年度	健康 73.2	老後の生活 52.6	家族 49.4	趣味・娯楽 41.6	仕事(家事や勉強も含む) 41.4	子ども 34.0

平成11年以降、上位の6項目について、順位に若干の変化はあるが、項目自体に変化はない。また、「健康」は、毎年1位となっている。過去の推移では、1位の「健康」と2位の「老後の生活」は、同傾向となっており、平成15年以降、概ね増加傾向となっている。(図表3-2)

図表 3-3 関心を持っていること (性／年齢別、上位 8 項目)



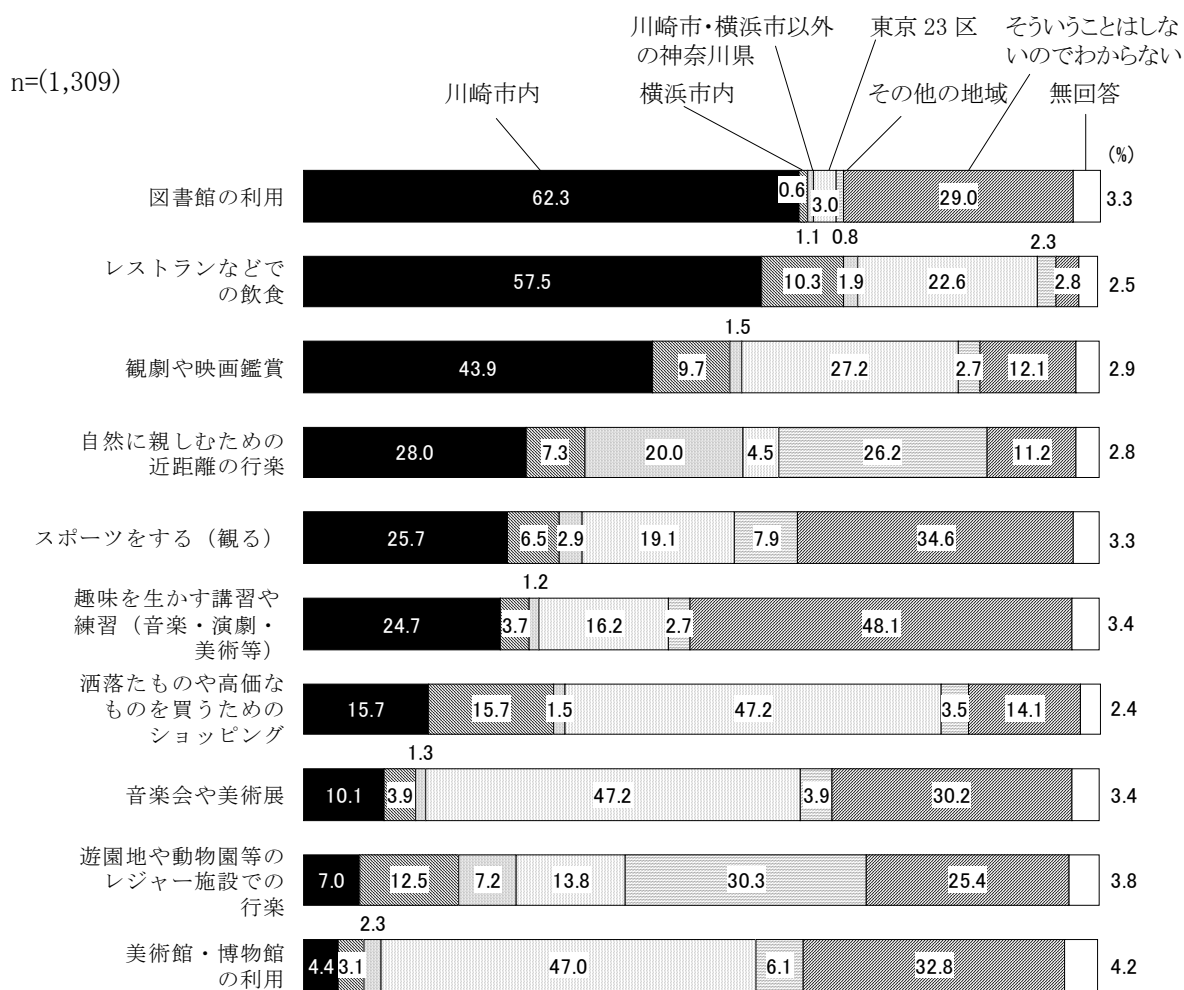
性／年齢別では、「健康」、「老後の生活」は、年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっている。「趣味・娯楽」は、男性では 70 歳以上が割合が少なく、女性では 20 歳代が約 6 割と他の年代に比べて割合が多くなっている。「子ども」は、男女ともに 30 歳代～40 歳代の割合が多くなっている。(図表 3-3)

3-2 行動範囲

- ◎ 「川崎市内」が多いのは、“図書館の利用”、“レストランなどでの飲食”、“観劇や映画鑑賞”、「東京 23 区」が多いのは、“洒落たものや高価なものを買うためのショッピング”、“音楽会や美術展”、“美術館・博物館の利用”

問6 行楽や文化施設の利用・ショッピングなどをされる場合、主にどこに行けますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

図表 3-4 行動範囲



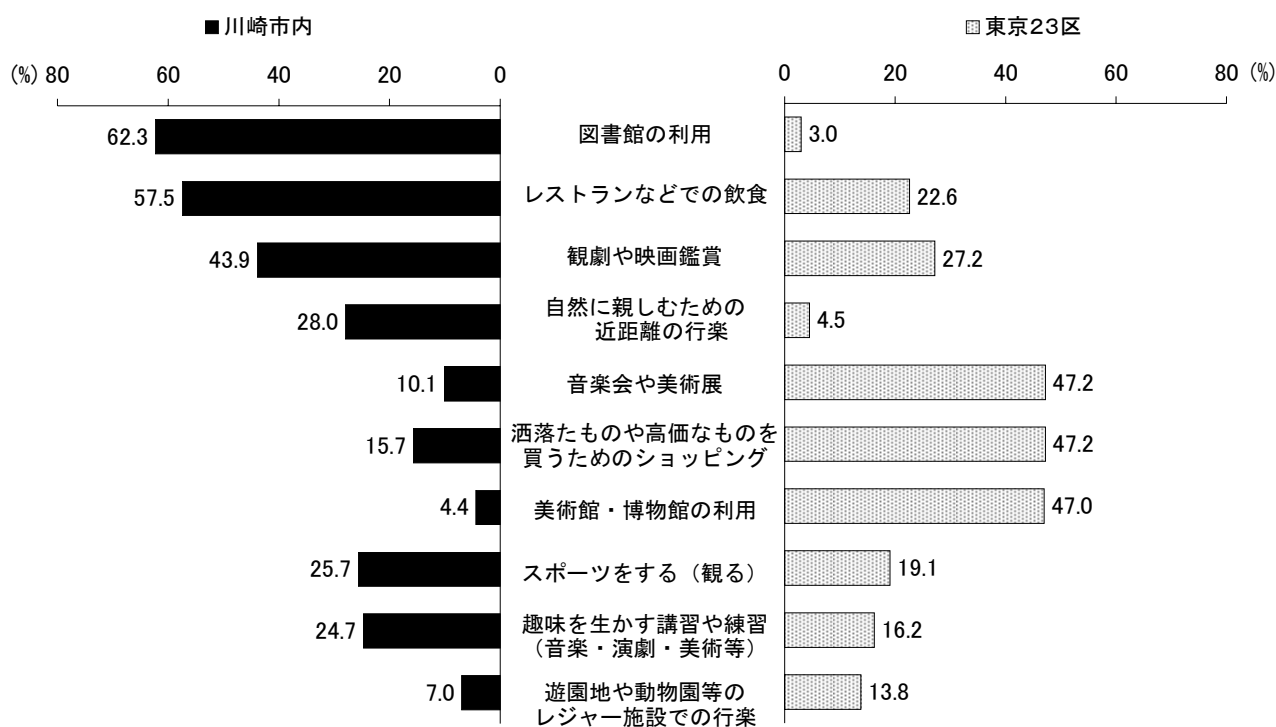
川崎市民の行動範囲で、「川崎市内」が最も多かったのは、“図書館の利用”(62.3%)で6割台前半となっている。以下“レストランなどでの飲食”(57.5%)が5割台半ば、“観劇や映画鑑賞”(43.9%)が4割台半ばとなっている。一方、「東京 23 区」では、“洒落たものや高価なものを買うためのショッピング”(47.2%)、“音楽会や美術展”(47.2%)、“美術館・博物館の利用”(47.0%)が多くなっている。(図表 3-4)

各項目について、行動範囲別に【川崎市内型】、【東京 23 区内型】、【非限定型】に分類すると以下のようになる。(図表 3-5)

- 【川崎市内型】…… 図書館の利用
 レストランなどでの飲食
 観劇や映画鑑賞
 自然に親しむための近距離の行楽
- 【東京 23 区内型】… 音楽会や美術展
 洒落たものや高価なものを買うためのショッピング
 美術館・博物館の利用
- 【非限定型】……… スポーツをする（観る）
 趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）
 遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽

図表 3-5 行動範囲 （「川崎市内」と「東京 23 区」との比較）

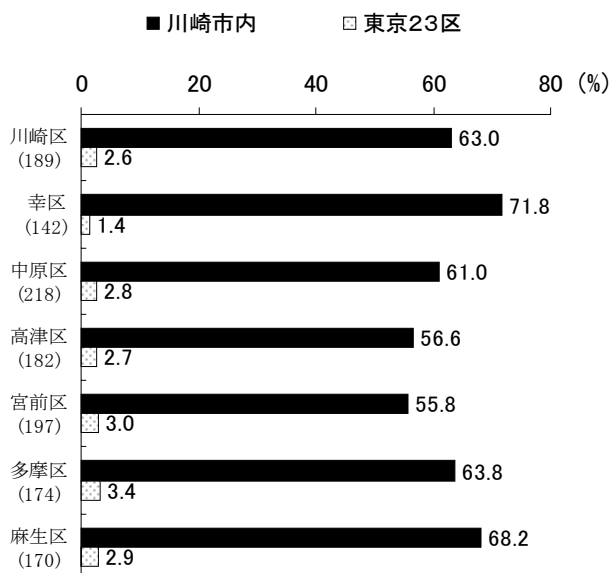
n=1,309



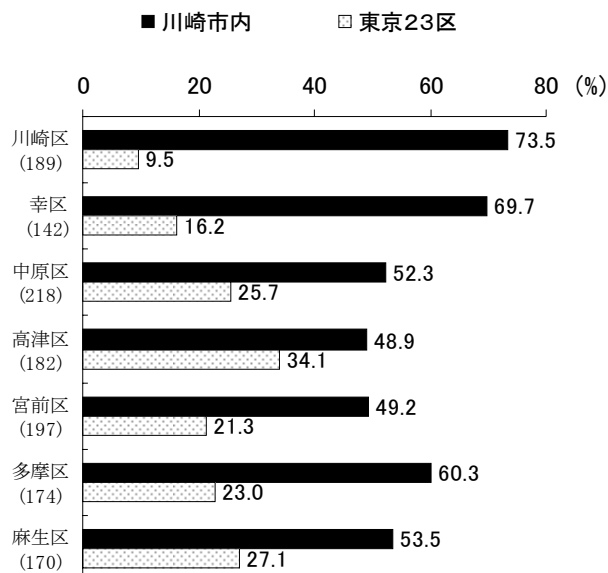
図表 3-6 行動範囲 (「川崎市内」と「東京 23 区」との比較 居住区別)

【川崎市内型】

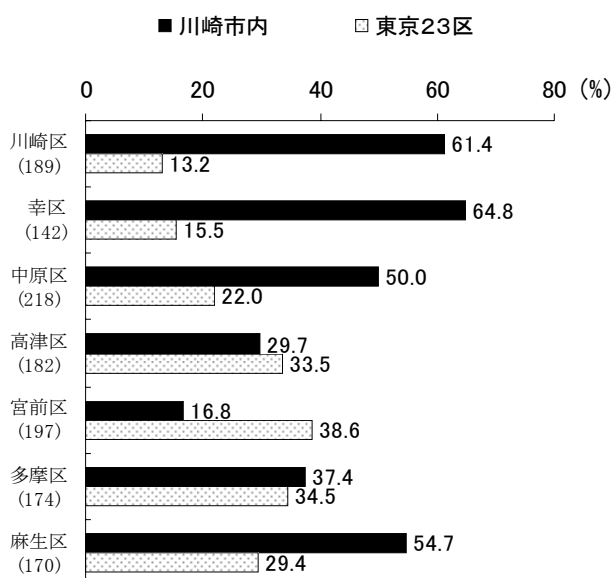
図書館の利用



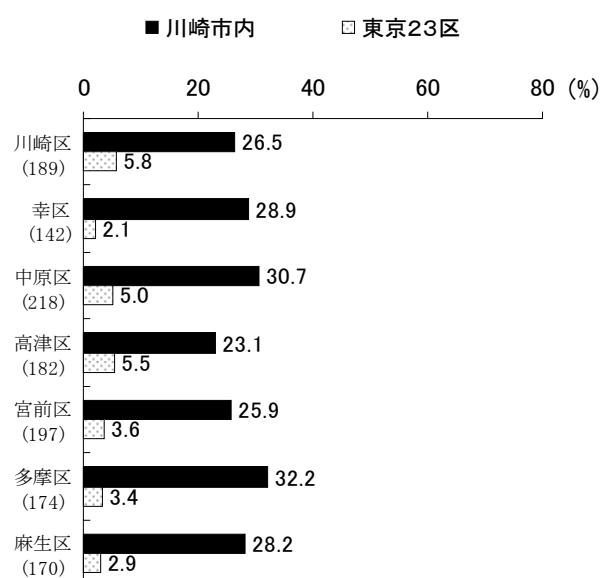
レストランなどでの飲食



観劇や映画鑑賞



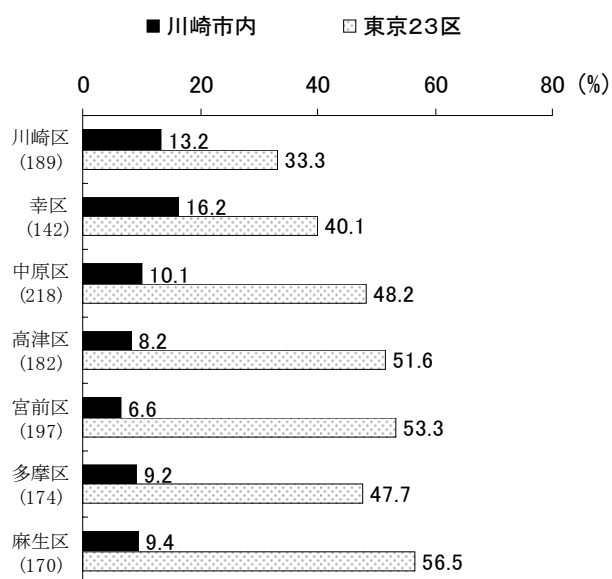
自然に親しむための近距離の行楽



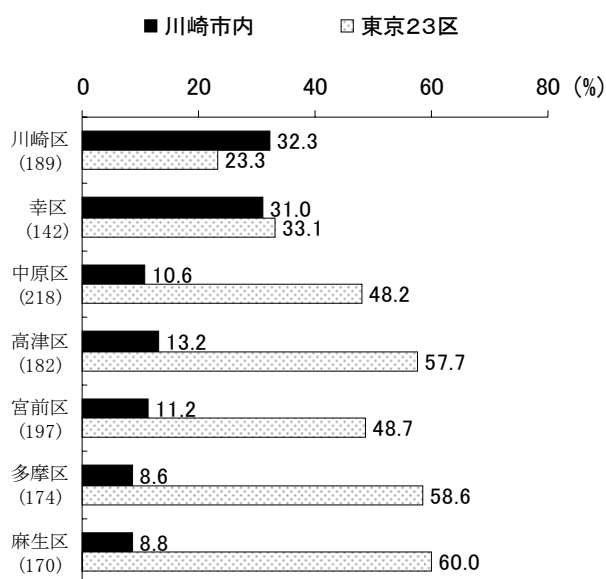
【川崎市内型】に分類した「川崎市内」での利用率の高い4項目を、居住区別に比較すると、“図書館の利用”は、幸区が7割台前半、麻生区が6割台後半で多く、他の居住区では5割台半ば～6割台前半で、いずれの居住区でも「東京 23 区」での利用率は、1割未満で非常に少なくなっている。“レストランなどでの飲食”は、川崎区が7割台前半で最も多く、高津区、宮前区では約5割となっている。“観劇や映画鑑賞”は、川崎区、幸区が6割台と多く、「東京 23 区」と比べて約5割上回っている。一方、宮前区では1割台半ばと少なく「東京 23 区」と比べて2割以上下回っている。高津区でも「東京 23 区」が「川崎市内」を上回っている。(図表 3-6)

【東京都 23 区内型】

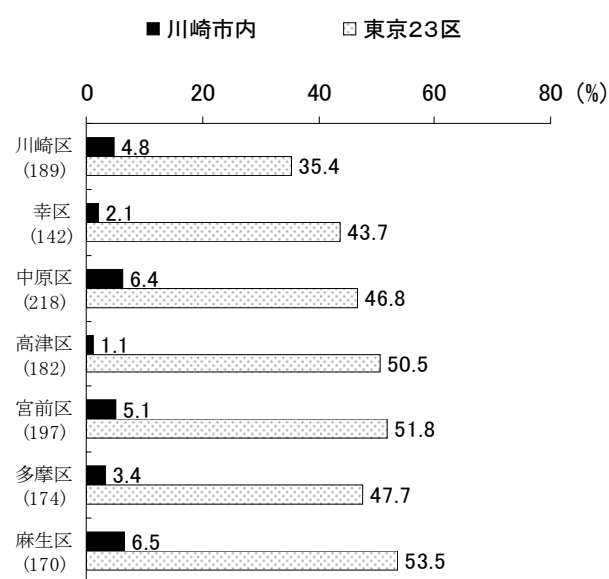
音楽会や美術展



洒落たものや高価なものを買うためのショッピング



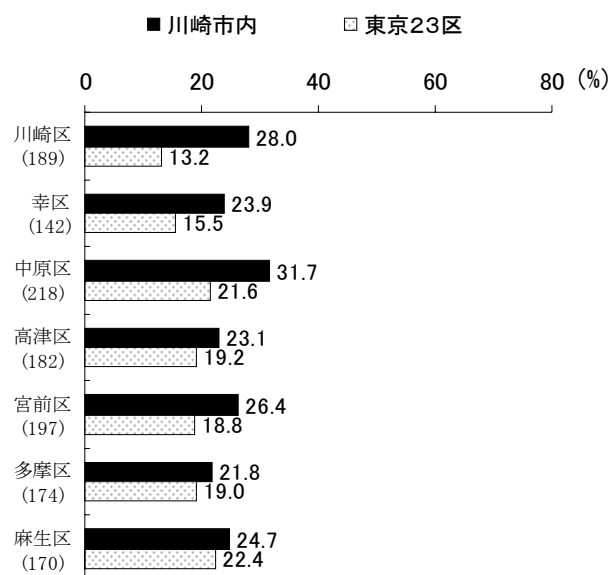
美術館・博物館の利用



【東京都 23 区内型】に分類した「東京 23 区」での利用率の高い 3 項目を、居住区別に比較すると、“音楽会や美術展”、“洒落たものや高価なものを買うためのショッピング”、“美術館・博物館の利用”のいずれの項目でも麻生区が「東京 23 区」での利用率が 5 割前半～6 割で最も多くなっている。一方、川崎区、幸区では、“音楽会や美術展”、“洒落たものや高価なものを買うためのショッピング”の 2 項目では、「川崎市内」での利用率が他の区に比べて多くなっている。

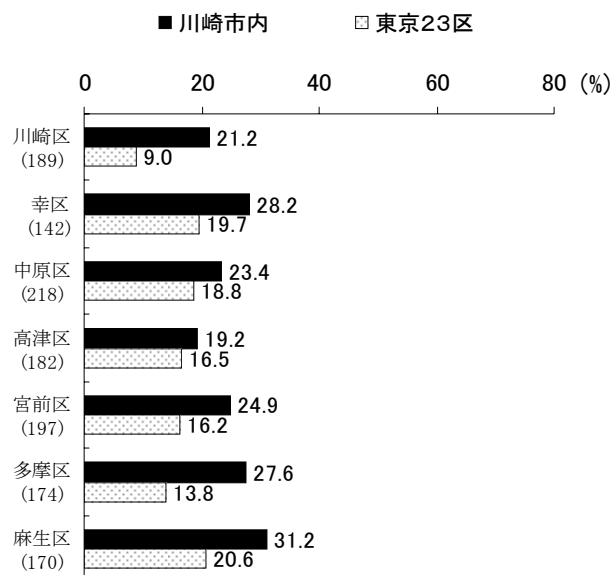
【非限定型】

スポーツをする（観る）

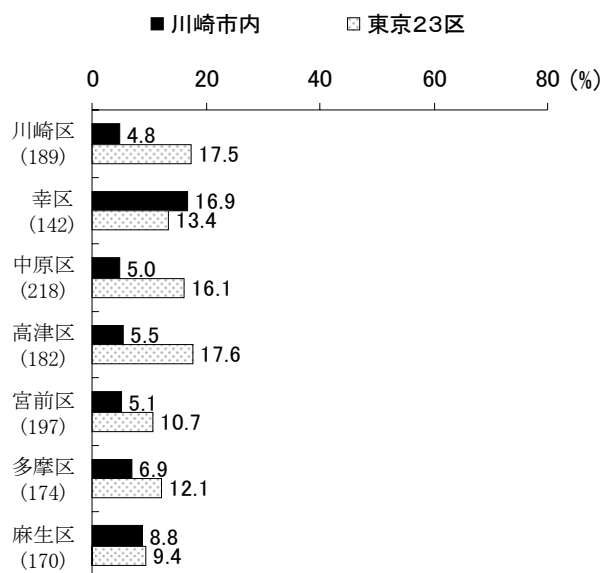


趣味を生かす講習や練習

(音楽・演劇・美術等)



遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽



【非限定型】に分類した「川崎市内」や「東京23区」と限定せずに平均的な利用があると思われる3項目を、居住区別に比較すると、“スポーツをする（観る）”、“趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）”は、いずれの居住区でも、「東京23区」での利用率は、約1割～2割台前半、「川崎市内」での利用率は、約2割～3割台前半となっており、「川崎市内」での利用率の方が若干上回っている。

4 市政に対する評価と要望について

4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

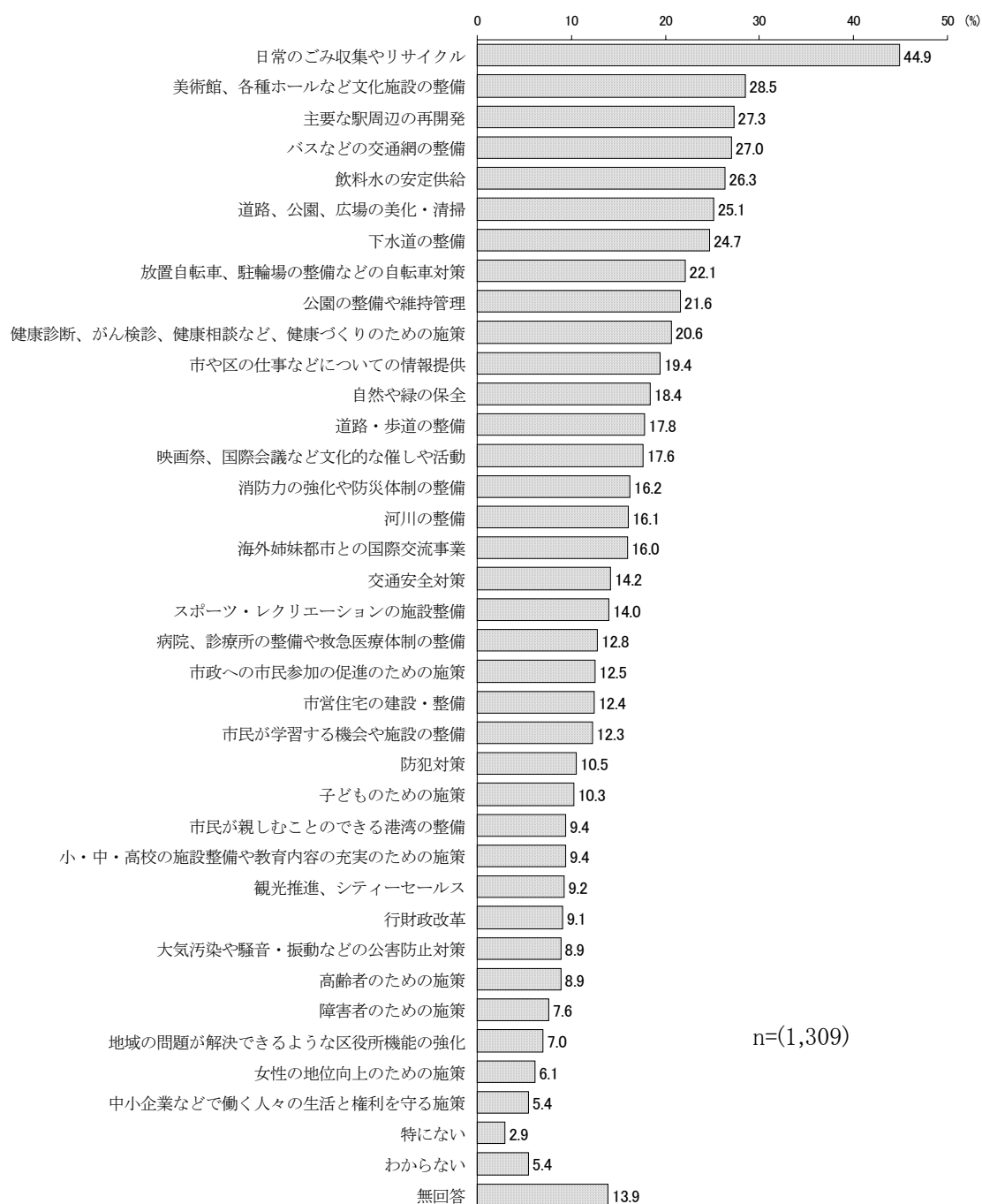
◎ 「日常のごみ収集やリサイクル」が44.9%で最も多い

問7 市政について総合的にうかがいます。

次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。

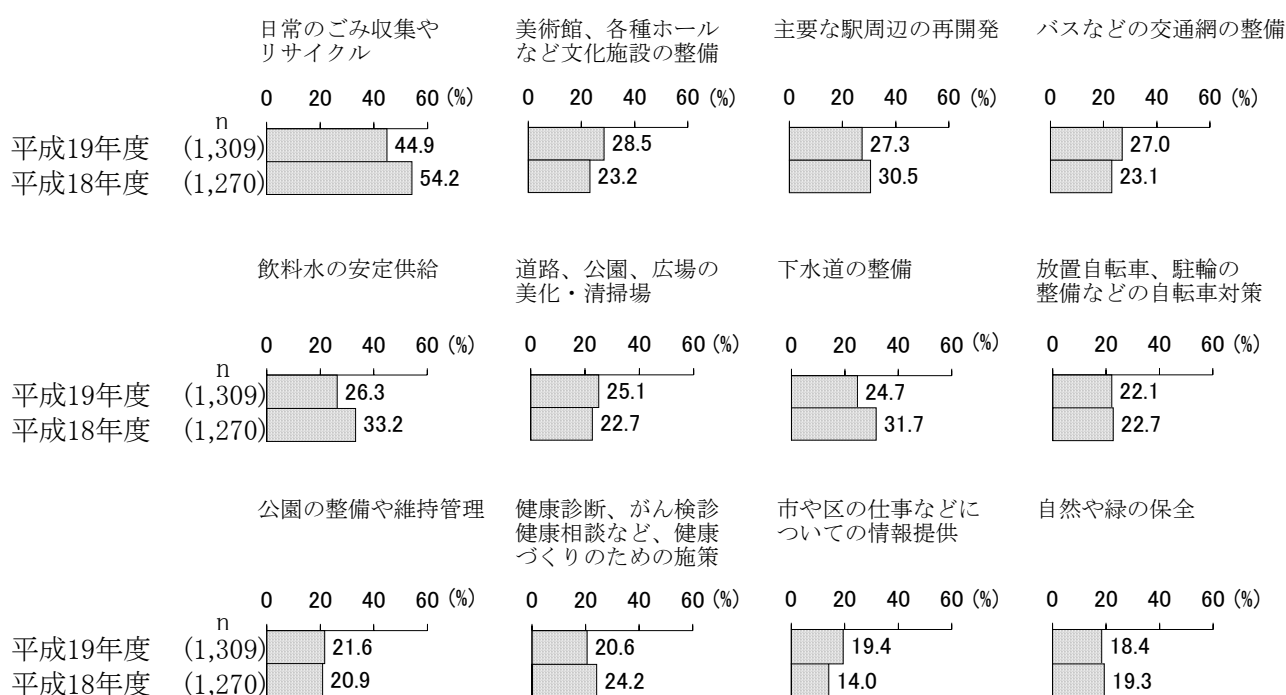
(あてはまるものすべてに○)

図表4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと



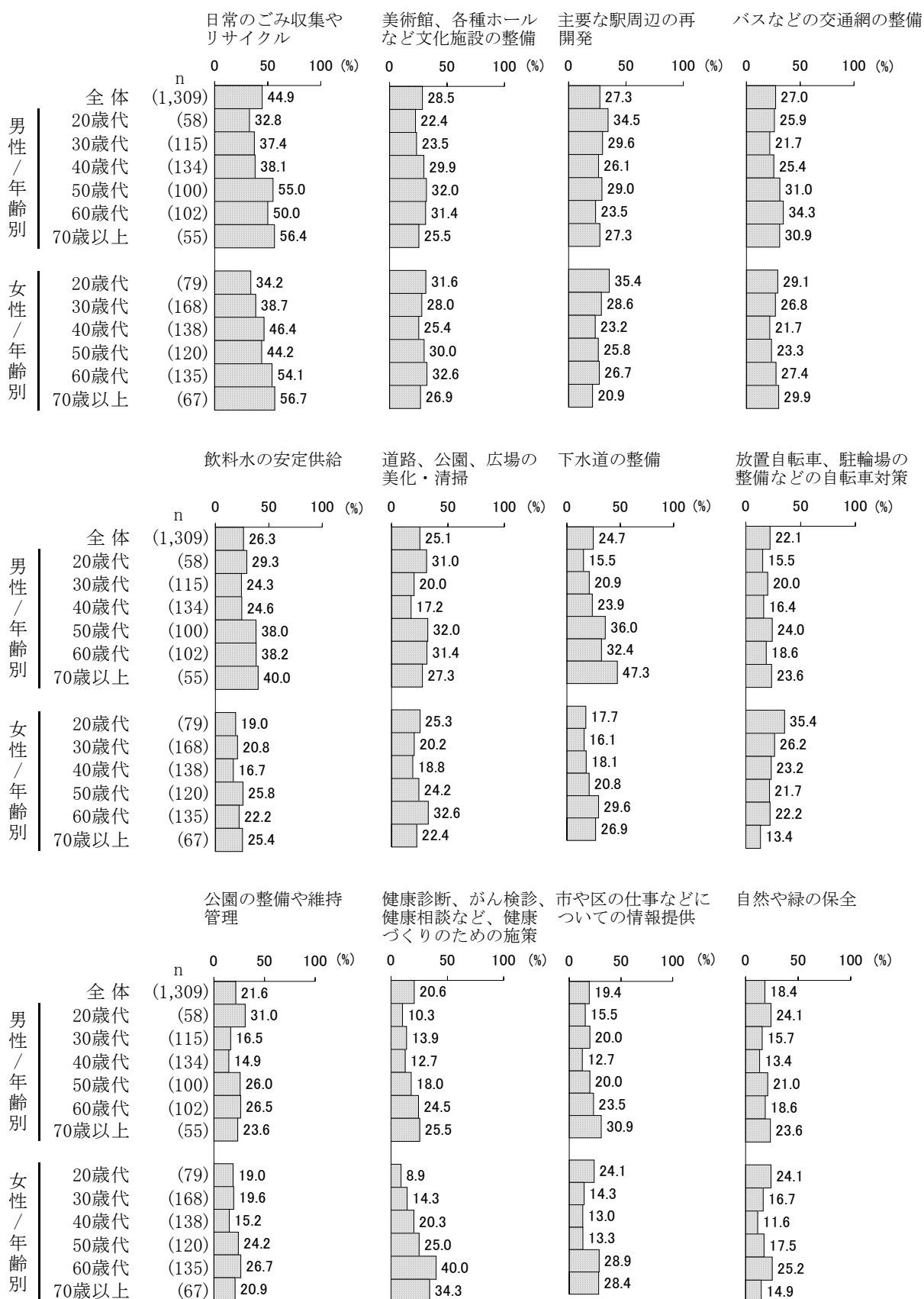
市政の仕事でよくやっていると思うことは、「日常のごみ収集やリサイクル」が 44.9%で最も多くなっている。以下「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(28.5%)、「主要な駅周辺の再開発」(27.3%)、「バスなどの交通網の整備」(27.0%)、「飲料水の安定供給」(26.3%)と続いている。
(図表 4-1)

図表 4-2 市政の仕事でよくやっていると思うこと (前年比較、上位 12 項目)



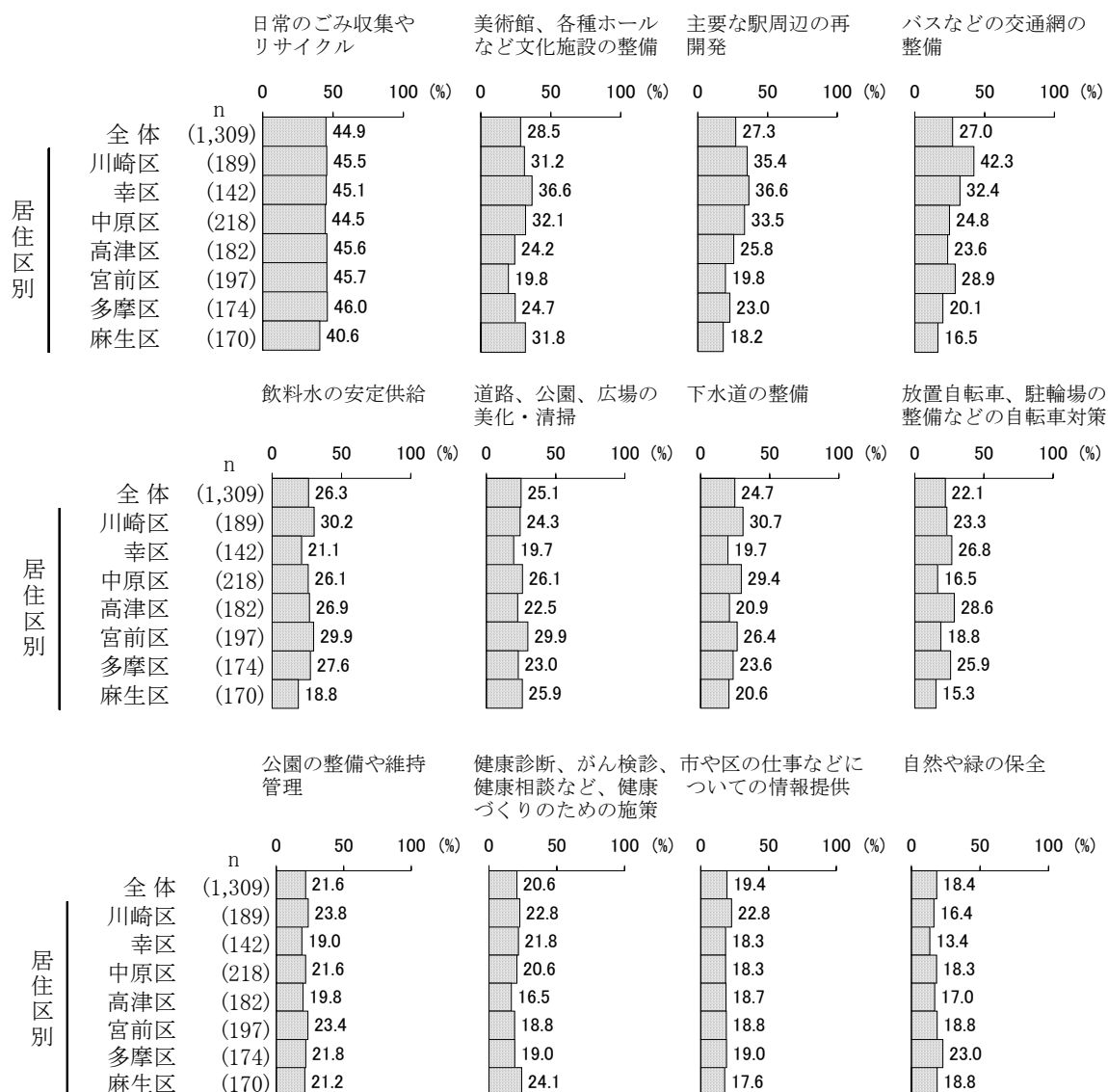
平成 18 年度と比較すると、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(28.5%)、「市や区の仕事などについての情報提供」(19.4%)で 5 ポイント以上上回っている。一方、「飲料水の安定供給」(26.3%)、「日常のごみ収集やリサイクル」(44.9%)、「下水道の整備」(24.7%)では、5 ポイント以上下回っている。(図表 4-2)

図表4-3 市政の仕事でよくやっていると思うこと (性／年齢別、上位12項目)



性／年齢別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、男性の50歳代、70歳以上、女性の60歳代以上で5割台半ばで多く、男女ともに20歳代で3割台前半～3割台半ばで最も少なくなっている。「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」は、いずれの年齢層でも2割～3割台となっている。「主要な駅周辺の再開発」は、男女ともに20歳代が3割台半ばで最も多く、他の年齢層では2割台となっている。(図表4-3)

図表4-4 市政の仕事でよくやっていると思うこと (居住区別、上位12項目)



居住区別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、居住区間で大きな差はみられず、いずれも4割台となっている。「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」は、幸区が3割台半ばで最も多く、宮前区が約2割で最も少なくなっている。「主要な駅周辺の再開発」は、川崎区、幸区、中原区が3割台前半～3割台半ばとなっている。(図表4-4)

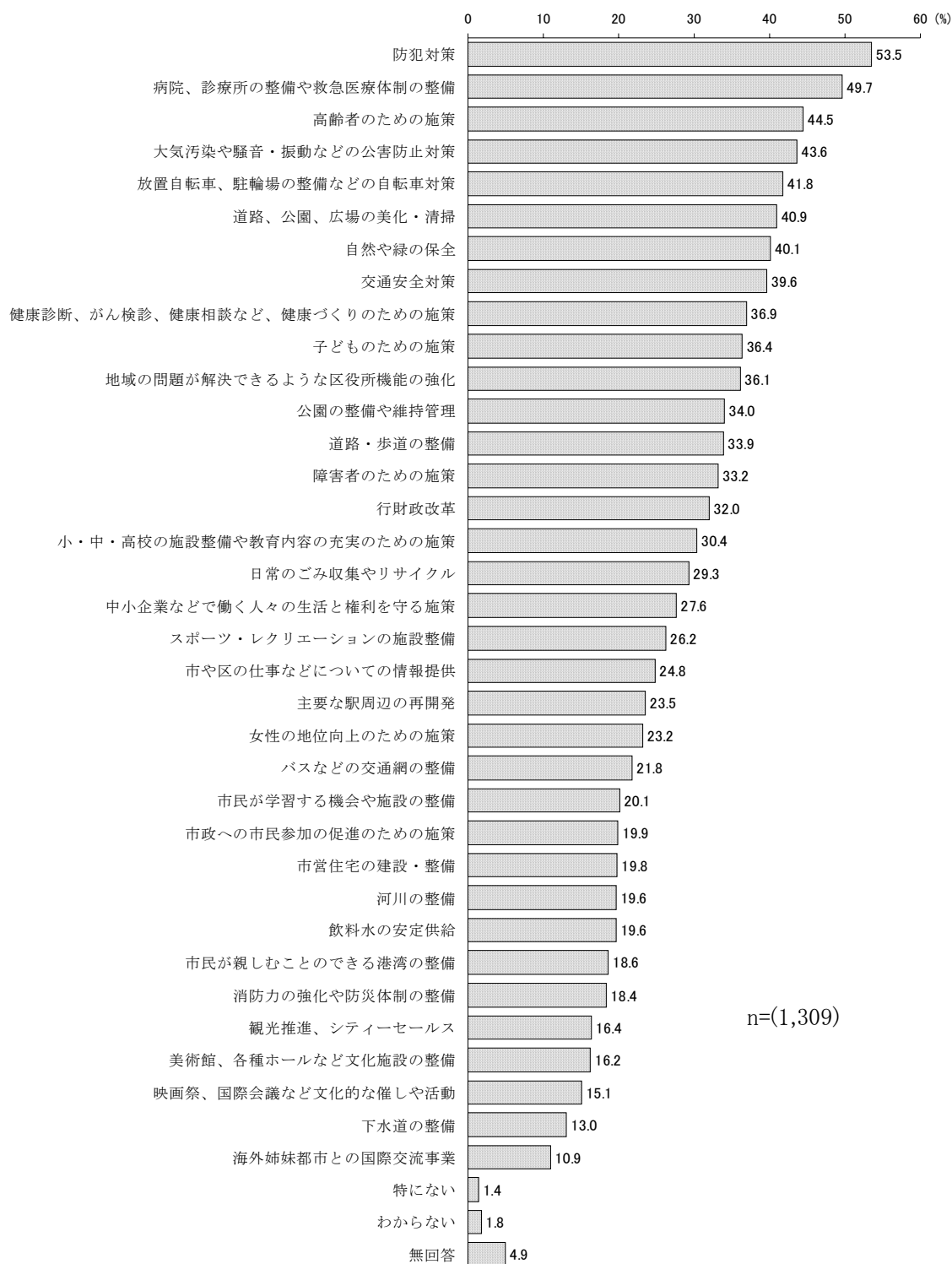
4-2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

◎ 「防犯対策」が53.5%

問8 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。

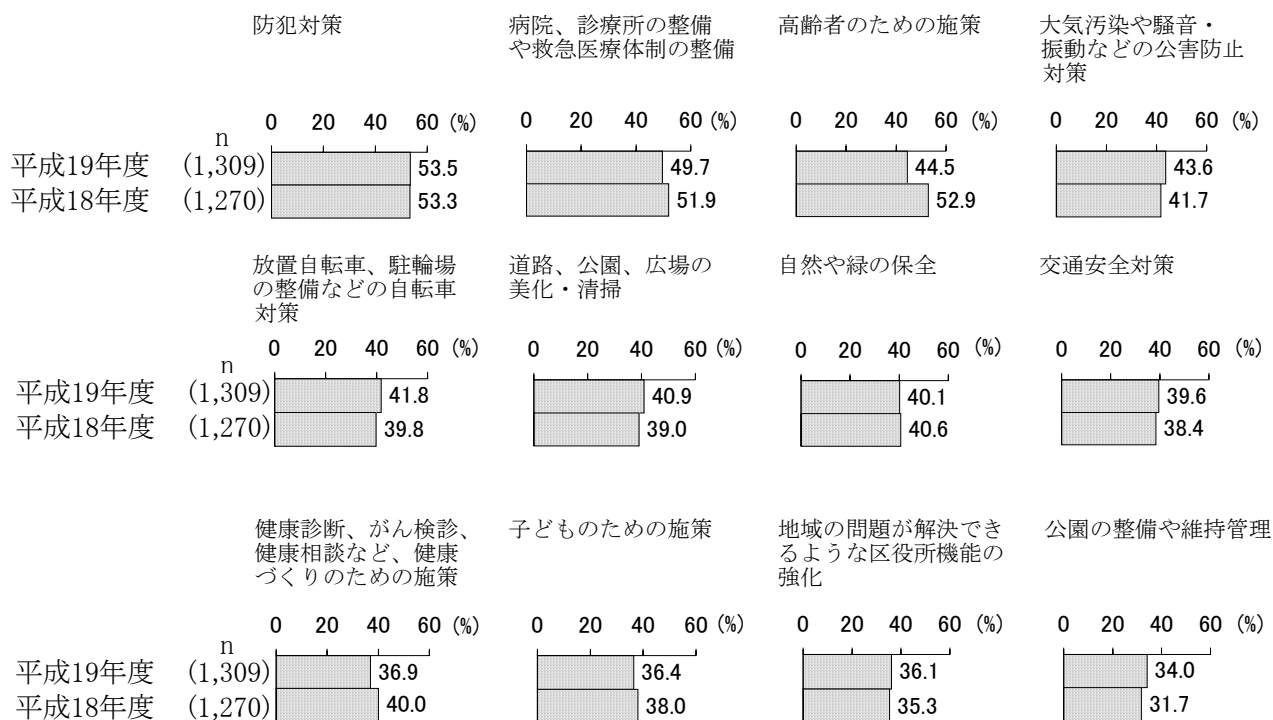
(あてはまるものすべてに○)

図表4-5 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと



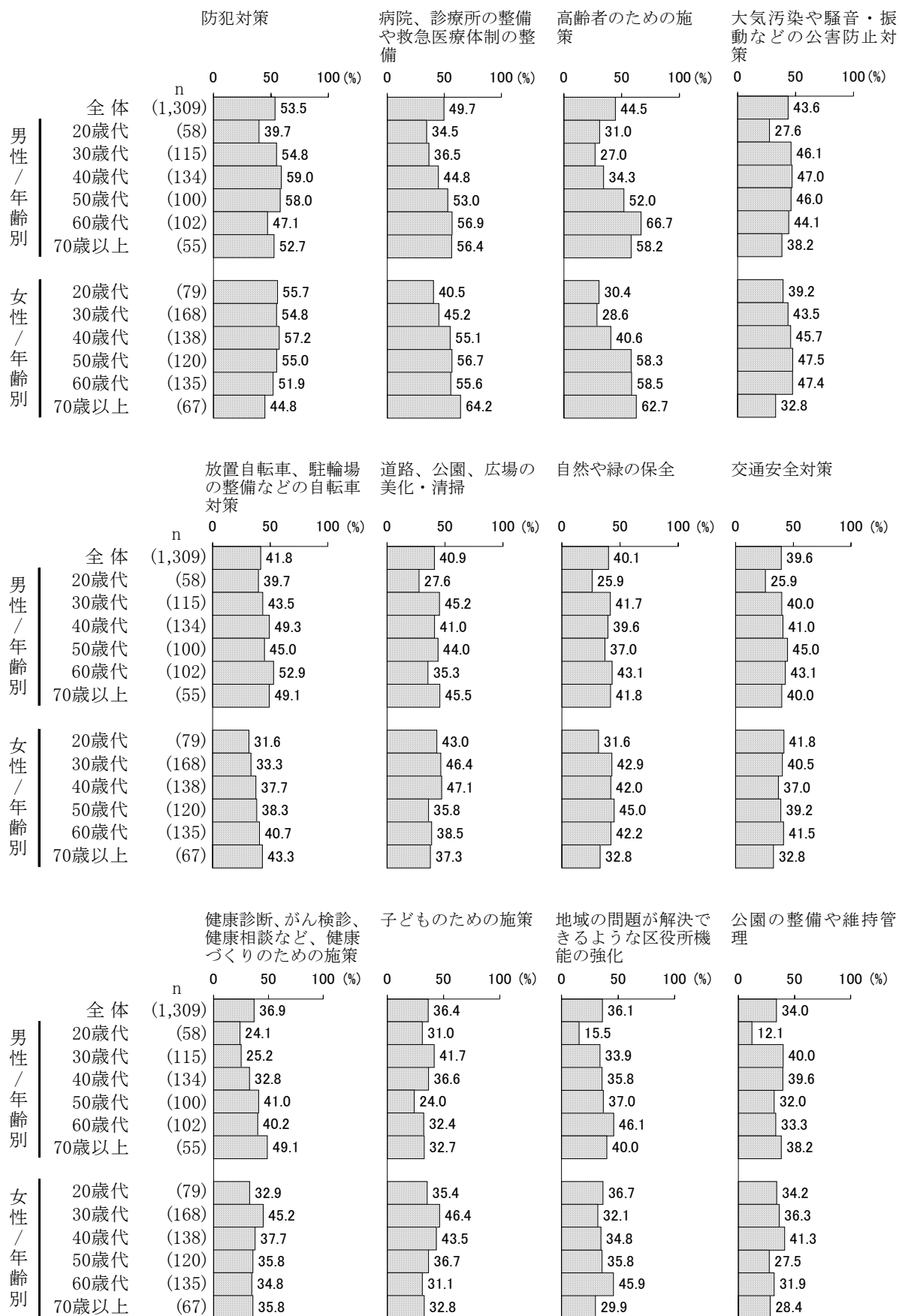
市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことは、「防犯対策」が 53.5%で最も多くなっている。以下「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(49.7%)、「高齢者のための施策」(44.5%)、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」(43.6%)、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」(41.8%)、「道路、公園、広場の美化・清掃」(40.9%)、「自然や緑の保全」(40.1%)と続いている。(図表4-5)

図表4-6 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと (前年比較、上位12項目)



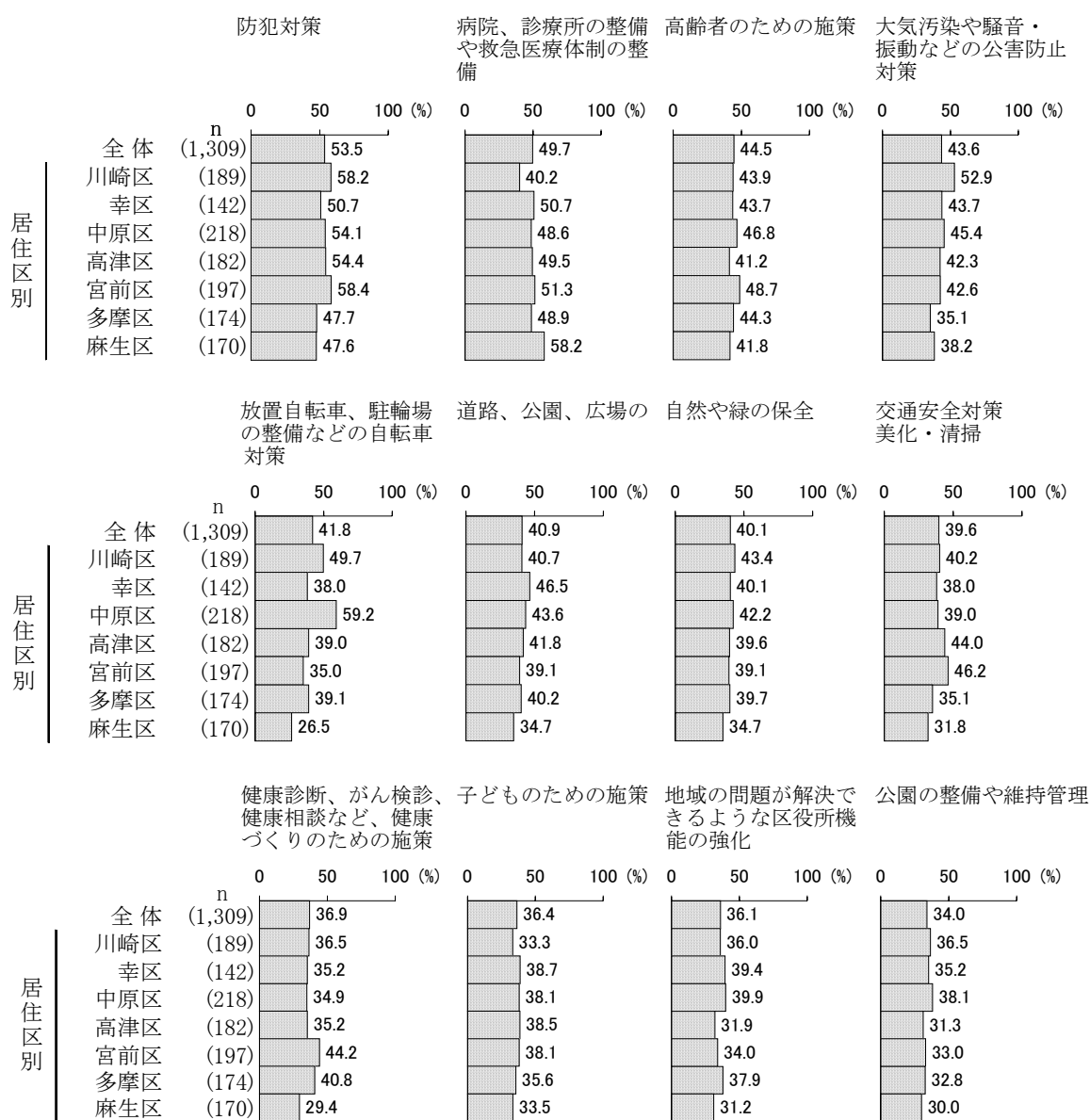
平成18年度と比較すると、大きな変化は見られず、「高齢者のための施策」(44.5%)で8.4ポイント下回った程度となっている。しかし、第1位の「防犯対策」が5割を超え、複数の項目が4割台となるなど高い数値となっている。(図表4-6)

図表 4-7 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと (性／年齢別、上位 12 項目)



性／年齢別では、「防犯対策」は、男性では、40 歳代～50 歳代が 6 割に近く、女性では、概ね 5 割台となっている。また、20 歳代の男性が 39.7%に対し、女性が 55.7%と 16 ポイントの差がある。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、全体的に男性より女性の方がやや多く、年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっている。「高齢者のための施策」は、男女ともに 50 歳代から多くなり、特に男性の 60 歳代、女性の 70 歳以上が 6 割台前半～6 割台半ばとなっている。(図表 4－7)

図表 4－8 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと (居住区別、上位 12 項目)



居住区別では、「防犯対策」は、川崎区、宮前区が 5 割台後半で多くなっている。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、麻生区で 5 割台後半と最も多く、川崎区で約 4 割と最も少なくなっている。「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」は、中原区で約 6 割、川崎区で約 5 割と多くなっている。(図表 4－8)

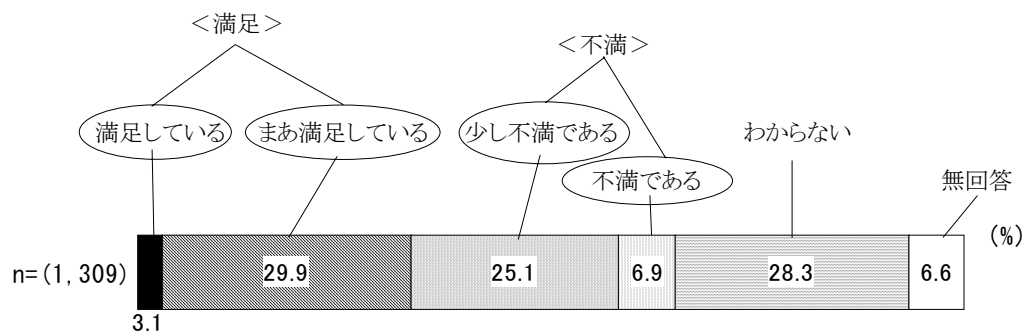
4－3 施策や事業の総合的な満足度

◎ <満足>は33.0%で3人に1人

問9 川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

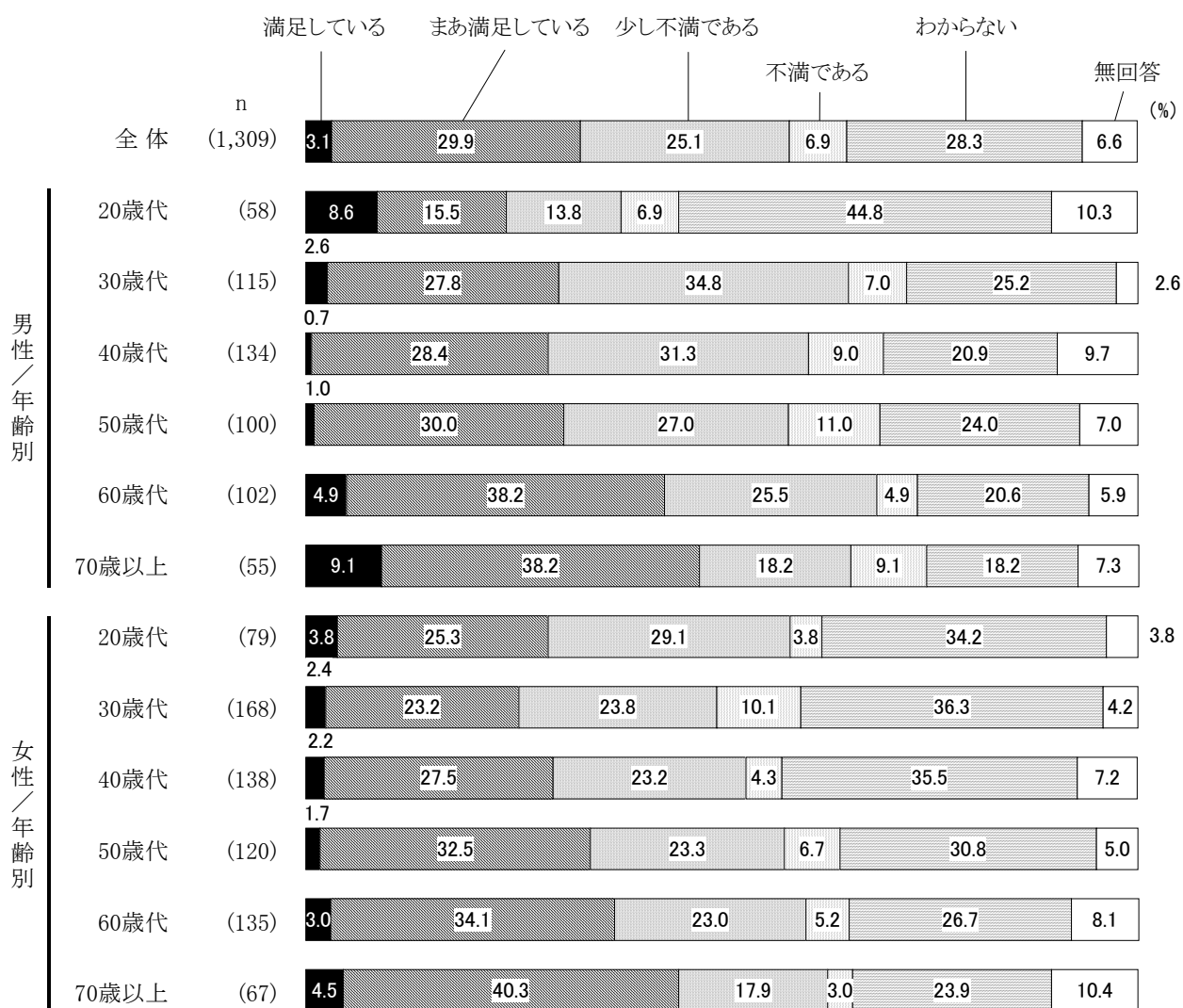
(○は1つ)

図表4－9 施策や事業の総合的な満足度



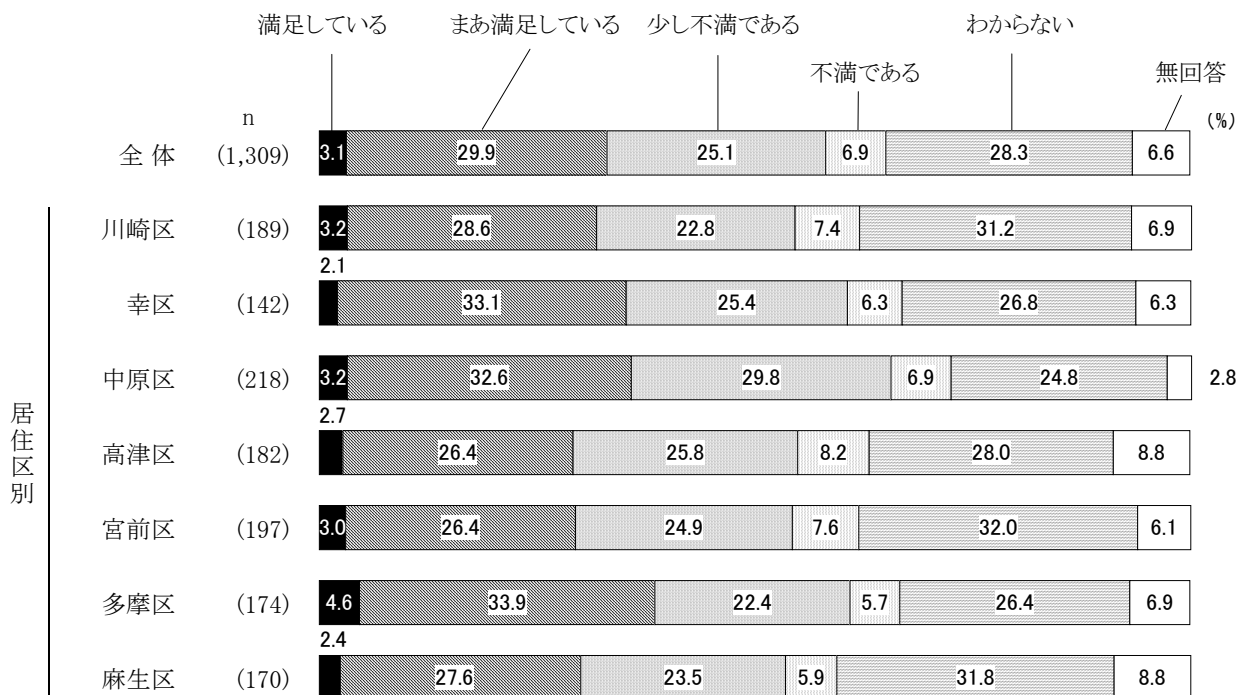
施策や事業の総合的な満足度は、「満足している」(3.1%)と「まあ満足している」(29.9%)をあわせた<満足>は33.0%となっている。一方、「少し不満である」(25.1%)と「不満である」(6.9%)をあわせた<不満>は32.0%となっており、<満足>と<不満>は、ほぼ同じ割合となっている。(図表4－9)

図表 4-10 施策や事業の総合的な満足度 (性／年齢別)



性／年齢別では、＜満足＞は、男性の60歳代以上、女性の70歳以上が4割台で多くなっている。一方、＜不満＞は、男性の30歳代～40歳代が4割台で多くなっている。(図表4-10)

図表 4－11 施策や事業の総合的な満足度 (居住区別)



居住区別では、どの区も＜満足＞と＜不満＞は、概ね同程度の割合となっているが、多摩区では、＜満足＞が最多で約4割、＜不満＞が最少で約3割となっており、＜満足＞が＜不満＞を約1割上回っている。一方、高津区では、＜満足＞が最少で約3割、＜不満＞が3割台半ばとなっている。(図表4－11)